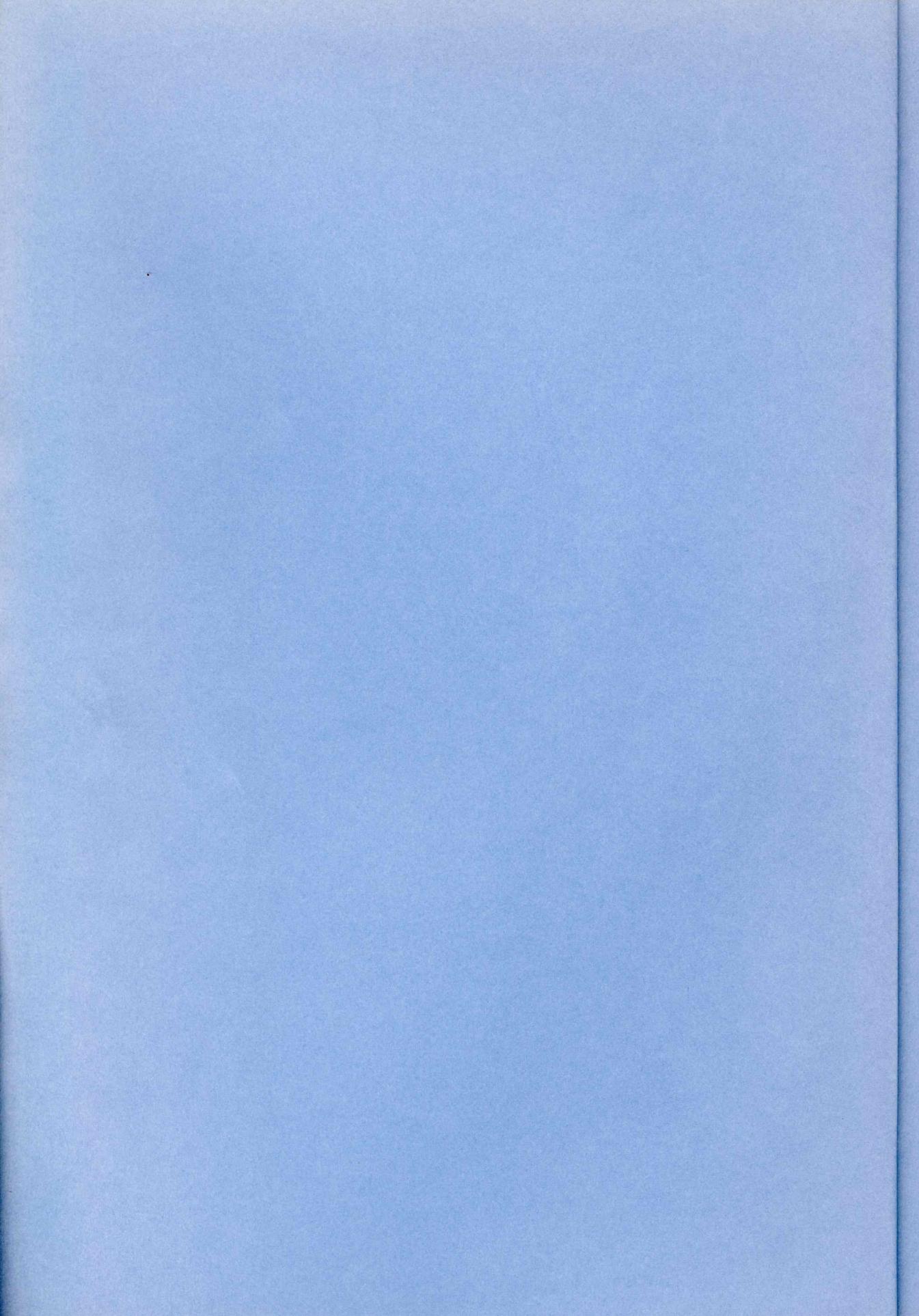


みる・かたる・つくる

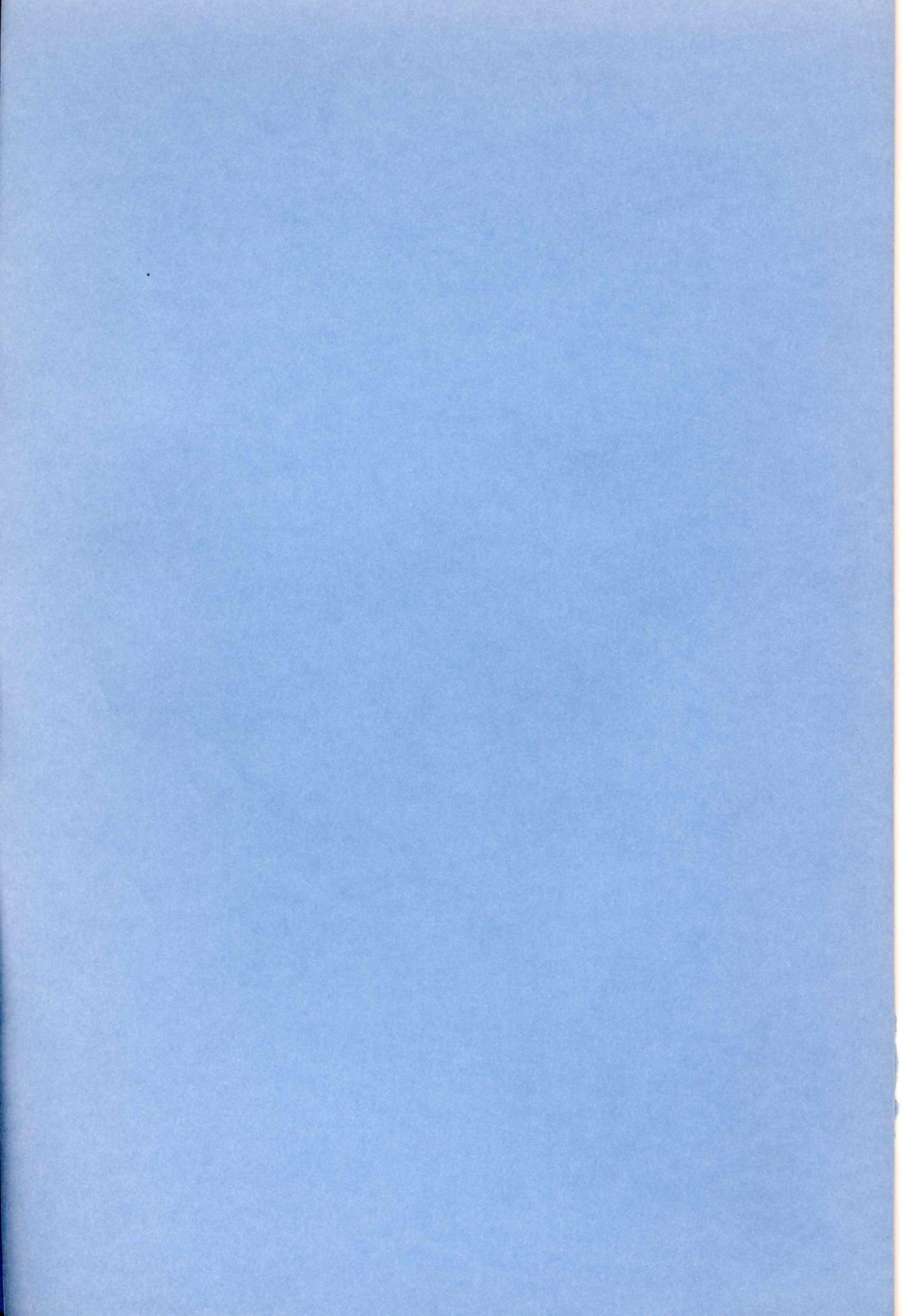
# 千葉県立美術館年報

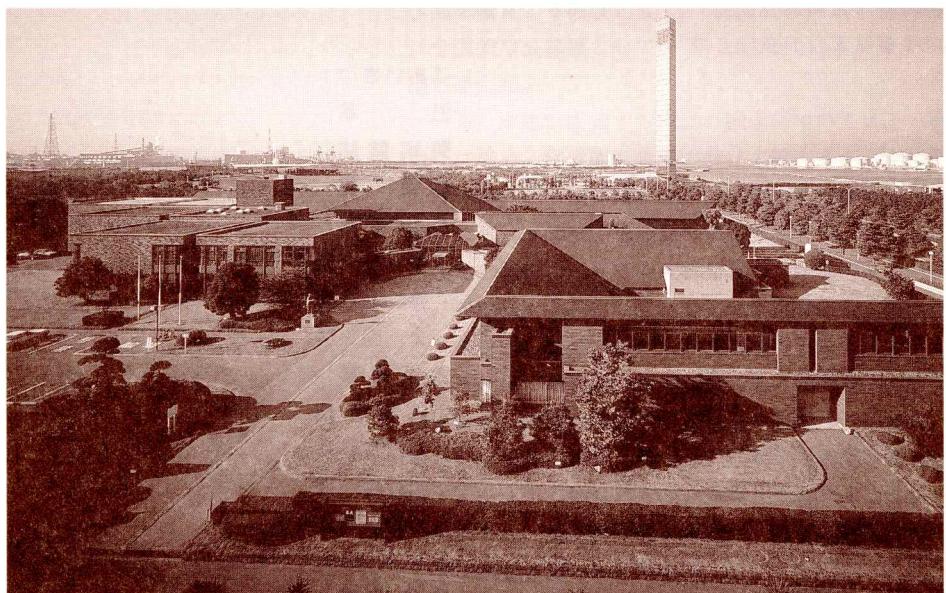
平成 3 年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART









千葉県立美術館外観

# 目 次

ごあいさつ	1
沿革	2
美術館誌	3
事業一覧	4
展示事業	5
常設展	6
特別展	14
企画展	19
普及事業	24
教育普及	25
情報資料室	28
刊行物一覧	35
調査研究員会議	35
活動協力	36
収集事業	38
収蔵資料	39
管理運営	42
機構	43
利用状況	45
展示室利用団体	46
施設	50
関係法令等	54
平成4年度主要事業	55
平成4年度職員	56
利用案内	57

## ごあいさつ

平成3年度の千葉県立美術館活動の実績を年報としてまとめました。

本館は、昭和49年の開館以来の運営方針であります“みる・かたる・つくる”を基本として、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めております。

本年度も、地域に密着した美術館として、房総ゆかりの陶芸家が多数参画した「東陶会」を中心とする「近代陶芸のモダニズム」、あるいは房総の美術家シリーズとして大原町出身の洋画家に焦点を当てた「安藤信哉展」を開催し、その業績を顕彰しました。また同時に、国際的視野に立ち、外国の優れた美術作品を鑑賞する機会として、「英國水彩画展」を開催し、更には全国的な公募展として、「第5回現代日本具象彫刻展」を実施しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、一層の充実、強化に努め、常設展を3期にわけて種々のテーマに基づき開催したほか、その他特設コーナーを設置して多彩な工夫を図り、館外における移動美術館展も2地域で実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、特別展、企画展に関連づけて美術講演会を開催するとともに、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まっている県民の美術創作への意欲にこたえてまいりました。

さらに、本館が収蔵すべき作品の収集については、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体、並びに県民の皆様の御指導と御支援をお願いいたします。

平成4年4月

千葉県立美術館長

福田 誠

# 沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月に増築工事の展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日	第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる（委員15名）	昭和50年3月13日	管理棟建築工事請負契約議案可決される
昭和45年1月19日	県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される	昭和50年3月16日	管理棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
昭和45年7月24日	建設地として千葉公園に内定する	昭和51年2月20日	管理棟竣工
昭和45年11月12日	第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる（委員10名）	昭和51年3月2日	管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
昭和46年3月31日	千葉公園内の美術館基本構想成る	昭和51年6月7日	寄附によって、正面玄関に植栽を行う
昭和46年6月24日	体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる 代案として千葉市中央港埋立地が提示される	昭和52年3月12日	彫刻の屋外展示を始める
昭和47年1月5日	建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する	昭和52年4月10日	展示棟の一室に美術普及室を開設する
昭和47年3月31日	基本設計完了する（株式会社大高建築設計事務所）	昭和53年1月18日	外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる
昭和47年7月31日	展示棟 第1期工事の実施設計完了する	昭和53年2月21日	美術普及棟の準備会が発足する
昭和47年9月21日	展示棟杭打工事着工	昭和53年10月17日	美術普及棟建築予算が計上される
昭和47年10月13日	展示棟建築工事請負契約議案可決される	昭和53年11月18日	浅井忠像 完成除幕式
昭和47年12月10日	展示棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）	昭和53年11月30日	美術普及棟実施設計完了する
昭和48年4月1日	文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる	昭和54年1月8日	美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
昭和48年11月30日	管理棟（第2期工事）の実施設計完了する	昭和54年3月5日	県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
昭和49年3月31日	展示棟竣工	昭和54年3月22日	県民アトリエ棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
昭和49年4月1日	千葉県立美術館発足する（職員14名）	昭和55年2月29日	県民アトリエ棟竣工
昭和49年10月23日	開館記念式典を行う	昭和55年3月16日	県民アトリエ棟完成記念講演会
昭和49年10月24日	開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める	昭和55年4月1日	千葉県美術品取得基金条例施行される
昭和50年2月21日	管理棟杭打工事着工	昭和55年9月9日	県民アトリエ棟情報資料室を開設する
		昭和58年7月29日	美術普及コーナーを開設する
		昭和58年11月12日	開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する
		昭和61年3月25日	展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化
		昭和61年4月10日	入口門扉4カ所設置
		昭和61年4月23日	美術館西側沿道寄りの生垣植栽
		昭和61年8月12日	講堂浸水防止工事
		昭和62年3月25日	機械室増築基本設計及び展示棟、収蔵庫、機械室増築工事実施設計完了する
		昭和62年10月15日	展示棟、収蔵庫、機械室増築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）

昭和63年 5月20日	受水槽設備改修工事（地上式）着工	7月27日	企画展「安藤信哉展」（9月8日まで）
昭和63年 8月31日	受水槽設備改修工事（地上式）完了する	常設収蔵作品展第Ⅱ期（9月8日まで）	
昭和63年 8月31日	展示棟、収蔵庫、機械室増築工事完了する	29日	博物館実習（8月3日まで）
平成元年 2月28日	増築展示棟周辺芝張工事完了する	8月1日	茂原市教育委員会研修生受入れ（10月31日まで）
平成元年 4月 1日	普及課が新設され、3課となる	2日	彫刻講座（8月25日まで 日数12日）
平成元年 4月20日	開館15周年記念特別展「房総と近代美術」を開催する	10日	第3回美術講演会
平成元年 9月11日	空調機改修工事実施設計完了する	20日	第2回美術館調査研究員会議
平成2年 6月 8日	空調機改修工事完了する	10月5日	特別展「近代陶芸のモダニズム」（11月10日まで）
平成2年 9月29日	収蔵庫（第1、2室）冷凍機改修工事着工	12日	第4回美術講演会
平成2年11月 7日	案内標識改修工事着工	30日	企画展「第15回千葉県移動美術館」（旭市民会館、11月12日まで）
平成3年 1月31日	収蔵庫（第1、2室）冷凍機改修工事完了する	31日	ウィスコンシン州ミルウォーキー美術館クリストファー・ゴールドスミス専務理事来館
平成3年 2月20日	案内標識改修工事完了する	11月15日	企画展「第15回千葉県移動美術館」（鴨川市民ギャラリー、11月25日まで）
平成3年12月 6日	空調用ポンプ改修工事完了する	28日	常設収蔵作品展特設コーナー（12月25日まで）

## 平成3年度美術館誌

4月 1日	辞令交付
2日	常設収蔵作品展第Ⅰ期（6月9日まで）
5月16日	版画講座（5月31日まで 日数12日）
6月 5日	日本画講座（6月20日まで 日数12日）
15日	特別展「英國水彩画展」（7月21日まで）
	常設収蔵作品展特設コーナー（7月21日まで）
18日	洋画講座1（6月30日まで 日数10日）
22日	第1回美術講演会
26日	第1回美術館調査研究員会議
7月 3日	陶芸講座（7月27日まで 日数9日）
6日	第2回美術講演会
10日	洋画講座2（7月25日まで 日数10日）
19日	メトロポリタン美術館ウイリアム・H・ルアーズ理事長来館
21日	特別展「英國水彩画展」開催に伴い、フィッソウイリアム美術館クラifton応用美術部長来館（7月22日まで）

7月27日	企画展「安藤信哉展」（9月8日まで）
常設収蔵作品展第Ⅱ期（9月8日まで）	
29日	博物館実習（8月3日まで）
8月1日	茂原市教育委員会研修生受入れ（10月31日まで）
2日	彫刻講座（8月25日まで 日数12日）
10日	第3回美術講演会
20日	第2回美術館調査研究員会議
10月5日	特別展「近代陶芸のモダニズム」（11月10日まで）
12日	第4回美術講演会
30日	企画展「第15回千葉県移動美術館」（旭市民会館、11月12日まで）
31日	ウィスコンシン州ミルウォーキー美術館クリストファー・ゴールドスミス専務理事来館
11月15日	企画展「第15回千葉県移動美術館」（鴨川市民ギャラリー、11月25日まで）
28日	常設収蔵作品展特設コーナー（12月25日まで）
12月 4日	書芸講座（12月6日まで 日数3日）
14日	企画展「第5回現代日本具象彫刻展」公募作品搬入（12月15日まで）
22日	企画展「第5回現代日本具象彫刻展」審査会
1月 5日	常設収蔵作品展第Ⅲ期（3月29日まで）
13日	企画展「第5回現代日本具象彫刻展」入選者発表
22日	洋画講座3（2月9日まで 日数10日）
28日	金工講座（2月13日まで 日数12日）
31日	企画展「第5回現代日本具象彫刻展」授賞式・オープニングレセプション
2月 1日	企画展「第5回現代日本具象彫刻展」（2月23日まで）
2月14日	第3回美術館調査研究員会議
2月15日	第5回美術講演会

# 事業一覧

月	み る	か た る	つ く る
4	常設収蔵作品展（第Ⅰ期） 4/2~6/9		
5			版画講座 5/16~31（日数12日）
6	特別展「英國水彩画展」 6/15~7/21 常設収蔵作品展(特設コーナー) 6/15~7/21	第1回美術講演会 6/22	日本画講座 6/5~20（日数12日） ②洋画入門講座1 6/6~15（日数6日） 洋画講座1 6/18~30（日数10日）
7	企画展「安藤信哉展」 7/27~9/8 常設収蔵作品展（第Ⅱ期） 7/27~9/8	第2回美術講演会 7/6	②洋画入門講座2 7/2~6（日数6日） 陶芸講座 7/3~27（日数9日） 洋画講座2 7/10~25（日数10日）
8		第3回美術講演会 8/10	彫刻講座 8/2~25（日数12日） ②デッサン入門講座1 8/6~9（日数4日）
10	特別展「近代陶芸のモダニズム」 10/5~11/10 企画展「第15回千葉県移動美術館」 (旭市) 10/30~11/12	第4回美術講演会 10/12	
11	企画展「第15回千葉県移動美術館」 (鴨川市) 11/15~25 常設収蔵作品展(特設コーナー) 11/28~12/25		
12			書芸講座 12/4~6（日数3日） ②洋画入門講座3 12/5~14（日数6日）
1	常設収蔵作品展（第Ⅲ期） 1/5~3/29		洋画講座3 1/22~2/9（日数10日） 金工講座 1/28~2/13（日数12日）
2	企画展「第5回現代日本具象彫刻展」 2/1~23	第5回美術講演会 2/15	②洋画入門講座4 2/12~20（日数6日） ②デッサン入門講座2 2/25~28（日数4日）

\* ②は友の会主催講座  
美術団体展は、P46に掲載。

## 展 示 事 業

常設収蔵作品展を3期に分けて開催し、各テーマに基づいて展覧したほか、特に特設コーナーを設けて本館収蔵の優品を公開した。

特別展としては、「英國水彩画展」「近代陶芸のモダニズム」を開催した。

企画展としては、「房総の美術家シリーズ－21－安藤信哉展」「第5回現代日本具象彫刻展」を開催したほか、「第15回千葉県移動美術館」を旭市民会館と鴨川市民ギャラリーにおいて開催した。

# 常設展

## 常設 収蔵作品展（第Ⅰ期）

常設収蔵作品展第Ⅰ期は、3コーナーに分けて展示了。「絵画にあらわれた風俗」をテーマにしたコーナーでは、日本画・洋画に展開される様々な風俗の紹介を、「新収蔵作品」のコーナーでは、本館で平成2年度にあらたに収蔵した作品を、「書」のコーナーでは、多様な書の表現を紹介した。

会 期 平成3年4月2日（火）～6月9日（日） 60日間

展示点数 85点

入場者数 27,906人

## 出 品 目 錄

### 「絵画にあらわれた風俗」

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	No.	作 家 名	作 品 名	制作年				
<日本画>											
1	浅井 忠	參 詣	1 1906～1907	17	不破 章	麗 日 新宿御苑	1977				
2	"	"	2 "	18	山谷 鑄一	屈	1948				
3	"	田 植 之 図	1889	19	大久保作次郎	"	1955				
4	"	ほ し か き	1890～1897	「新収蔵作品」							
5	"	籠を背負う女		<日本画>							
6	大浦掬水	獅 子 舞	1975	1	石井林響	漁	樵	1913頃			
7	高畠郁子	メスティーソの女達	1977	2	"	岩 魚 つ り		1926			
8	富取風堂	駅 路	1961	3	小宮山 俊	沙 羅 の 樹 の 下		1981			
9	村松乙彦	菊 人 形	1942	4	"	赤 い 嶺 (雪稜)		1988			
10	若木 山	安房ノ海処女	1951	5	"	白 い 嶺	"				
11	"	三篋刈る信濃の女	1955	6	牧野三生郎	赤 目 之 滝					
<洋画>											
1	浅井 忠	歐 州 市 場 風 俗	1903頃	7	横尾芳月	緑	陰	1959			
2	荒谷直之介	那 霸 の 踊 り 子	1967	8	"	い で 湯		1980			
3	"	大 原 女	1969	9	"	鏡 獅 子		1981			
4	石井柏亭	舞 姫	1953	10	"	澄 心		1984			
5	遠藤健郎	朝 市	1975	11	"	春 風		1986			
<洋画>											
6	椿 貞雄	春夏秋冬図屏風(春)	1931	1	足立源一郎	水郷初夏(中州水明館より)		1955			
7	鶴田吾郎	蒙 古 の 女	1937	2	"	" (中州) 4		"			
8	"	坑 夫		3	"	" ( ) 5		"			
9	"	網 う つ 男		4	梅原龍三郎	伊 豆 大 仁 風 景		1929			
10	"	麦 打 ち		5	大崎善生	十 二 橋		1950頃			
11	"	芋 堀 り		6	"	渓 流		1988			
12	鴻川誠一	花 火	1955	7	"	初 秋 水 郷		1989			
13	"	祭	1965	8	片小田栄治	地 I (DIRTY COLLECTION)より		1990			
14	"	サンマルコのカフェー	1970	9	櫻井晨正	C a r r i e		"			
15	不破 章	裁 縫 女	1943	10	柴田祐作	佐 原 風 景		1980			
16	"	白 い 砂	1967	11	"	水 郷 静 日		1981			

No.	作家名	作品名	制作年
12	柴田祐作	白い蔵	1988
13	田中定一	私の地球	1990
14	中野庸二	a r i p p l e	"
15	吉田博	雨後の穂高山	1927頃
16	コロー	フォンテンブローの石切場	1835~40

〈彫刻〉.

1	零駒無藏	過ぎし日のアパート	1989
2	南部治夫	時の流れに……(相)	"
3	毛利教武	手	1919
4	ブルデル	聖母子	1921

〈書〉

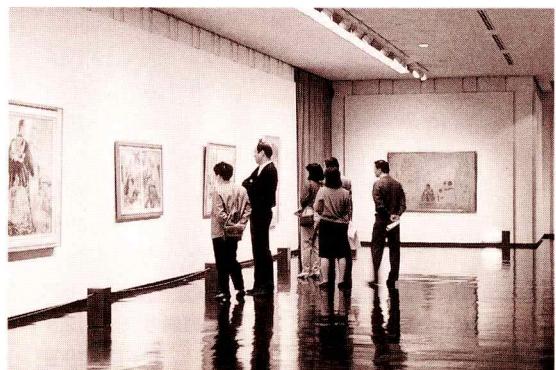
1	小暮青風	修羅	1973
2	"	漂白の思い	1985
3	"	一閑	1990
4	鈴木方鶴	天眞爛漫	1972
5	"	登樓萬里春	1981
6	"	華下壺酒	1984
7	"	壺中日月長	"

No.	作家名	作品名	制作年
<資料>			

1	石井林響	印譜
---	------	----

「書」

1	浅見喜舟	太公有垂釣歌	1983
2	浅見錦龍	古泉千櫻詩	1976
3	江川碧潭	白雲青山	
4	大石隆子	待君明	1975
5	金子聰松	視思	1973
6	小暮青風	万葉集東歌	1966
7	小安花邨	バイロンの言葉	"
8	鱸	七言古詩	
9	鈴木方鶴	一笑千山青	1984
10	高澤南総	一桃季争妍	1970
11	高宮金陵	高山部赤人歌	
12	種谷扇舟	故郷之近河	1971
13	千代倉桜舟	宗左近歌	1988
14	中台邱園	中盧綸詩	1986
15	中村象閣	古泉千櫻の歌	1972
16	福田丞州	蘇東坡詩	1983



## 常設 収蔵作品展（特設コーナー）

同時期に開催した特別展「英國水彩画展」の鑑賞の一助とするため、収蔵品の中から近代日本の水彩画を発展させた個性ある作家の作品を選び「水彩画コーナー」として紹介した。

会 期 平成3年6月15日（土）～7月21日（日） 32日間

展示点数 101点

入場者数 25,269人

### 出 品 目 錄

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	No.	作 家 名	作 品 名	制作年
<b>「水彩画コーナー」</b>							
1	ワーグマン	松 島 風 景	1889	35	小山周次	ば ら	1938
2	五百城文哉	日 光		36	" 菖 蒲	蒲	1958
3	浅井 忠	猿子窩第二軍司令部	1894～1895	37	" 銚 子 犬 吠	埼	1961
4	"	平壌大同江煉光亭	1894	38	" 三 宝	柑	"
5	"	パ リ 公 園	1900～1902	39	" 甲 斐 牧	丘	1946
6	"	男 性 裸 像	1901	40	赤 城 泰 舒	赤 屋 根 の 村	1913
7	"	農 家	1902	41	" 山	湖	
8	"	京都高等工芸学校の庭	1903	42	後 藤 工 志	ダ リ ア	1913
9	"	奈 良 郊 外	"	43	河 合 新 藏	竹 林 図	1934頃
10	"	帆 船 の 図	1907	44	" 春	の 日	
11	牧野克次	松 林		45	真 野 紀 太 郎	バ ラ	1940
12	石井柏亭	病 児	1904	46	白 滝 幾 之 助	伊 国 ア シ シ	1923
13	"	真 間 の 入 江	"	47	" エ ジ プ ト		1922
14	"	舟 に 居 る 人	1913	48	" 海		1939
15	"	舞 姫	1953	49	水 野 以 文	草 花	1914
16	"	晚 春 行 楽 図	1938	50	相 田 直 彦	清 浪	
17	加藤源之助	秋の山（大和初瀬村）	1908	51	古 賀 春 江	風 景	
18	長谷川良雄	高等工芸学校西裏通り	1907	52	鶴 田 吾 郎	池 袋 風 景	1911
19	"	晚 秋	1909	53	" 十 和 田 の 宿		1960
20	"	下 鴨	1915頃	54	" 芋 堀	り	
21	間 部 時 雄	田 中 の 牧 場		55	中 西 利 雄	トリエール・シュール・セーヌ	1930
22	中 林 傑	冬 の 風 景	1935頃	56	" 南 仏 風 景	"	
23	"	山 中 湖 付 近		57	" 人 物		1936
24	"	け し の 花		58	" 四 人 の 女		1939
25	石川欽一郎	水 辺		59	" 曇 り 日 の 離 宮 の 駅		1947
26	"	赤 城 淡 煙		60	富 田 通 雄	静 か な る 日	1937
27	安井曾太郎	デッサン(人形を持つ少女)		61	" 外 房 鶴 原		1964頃
28	田中善之助	聖 護 院 の 裏	1907頃	62	不 破 章 裁 縫	女	1943
29	"	山 門		63	" 二 人 の 女		1953
30	三宅克己	小 諸 城 址	1900	64	" 三 人 姉 妹		1956
31	大下藤次郎	紫 陽 花	1904	65	バンコクの水辺市		1966
32	"	青 梅	"	66	白 い 砂		1967
33	"	久 々 子 湖	1911	67	奥 鬼 怒 の 湯 治 場		1976
34	丸山晩霞	長 野 水 内 風 景	1898	68	麗 日 新 宿 御 苑		1977
				69	安 藤 信 哉 み な と		

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
70	三橋兄弟治	樂器のある静物	1953	86	小堀 進	セーヌ川	1973
71	"	染色をする女	1954	87	"	霞浦	"
72	"	ハティバの城壁	1981	88	"	花と海	1974
73	荒谷直之介	若い裸婦たち	1976	89	"	逆光	"
74	"	大原女	1969	90	須田国太郎	景(漁船)	
75	"	白船入港(マラガ)	1962	91	瑛九	鳥	1956
76	"	那覇の踊り子	1967	92	池田満寿夫	水作	彩品
77	"	大島風景	1920	93	"	医大尖煙突	"
78	小堀 進	冬晴の果樹園	1936	94	無縁寺心澄	旧県庁と噴水	
79	"	漁村	1937	95	"	二橋	1950頃
80	"	高原	1951	96	大崎善生	十秋水郷	1989
81	"	海(白浜)	1954	97	"	デッサン(D)	
82	"	レマン湖畔	1962	98	原勝郎	荒川風景	1958
83	"	南欧の丘	"	99	鴻川誠一	花籠	
84	"	ロンドンの朝	1964	100	榎本了三	ケ	1975
85	"	山	1965	101	今井謙二	崎	



## 常設 収蔵作品展（第Ⅱ期）

房総はその風趣豊かな景色と首都東京に近いという地理的な条件などから、格好の写生地として多くの作家が訪れている。常設収蔵作品展第Ⅱ期前期では、「描かれた房総」をテーマに、画家を魅了する房総の自然や、時代の流れと共に変わる風土や生活を、日本画・洋画・版画の作品を通して紹介した。また「特設コーナー」を設け、特に鑑賞の要望の高い作品を紹介した。

会 期 平成3年7月27日（土）～9月8日（日） 37日間  
 展示点数 52点  
 入場者数 22,102人

### 出 品 目 錄

#### 「描かれた房総」

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	No.	作 家 名	作 品 名	制作年				
<日本画>											
1	岩崎巴人	波 潤 岩 礁 図	1974	18	椿 貞雄	鋸山から見た房総半島	1948				
2	島田良祐	海 近 き 村	1954	19	鶴田吾郎	中 山 競 馬 場					
3	田岡春径	五 百 羅 漢		20	寺田政明	船 具	1970				
4	時田直善	夕 風	1954	21	"	犬吠灯台の見える外川港	1985				
5	富取風堂	朝 光	1931	<版画>							
6	"	廻 舍	1938	1	石井柏亭	印 麟 沼	1917				
7	峯岸魏山人	九 十 九 谷	1976	2	"	佐 原	"				
8	吉岡堅二	馬	1937	<特設コーナー>							
9	"	濤	1939	<日本画>							
10	若木山	海 女	1952	1	石井林響	梅 花 書 屋					
11	渡辺学	川 口	1976	2	富取風堂	暮 色	1962				
12	"	夜 明 け	"	<洋画>							
<洋画>											
1	秋元恒	高 生 垣 の 家	1976	1	クールベ	眠 る 人	1853				
2	浅井忠	印 麟 沼	1878頃	2	コ ロ 一	フォンテンブローの風景	1830～35頃				
3	"	房 州 白 浜	1886～88	3	コ ラ ン	田 園 詩	1903				
4	"	房 州 乙 浜 村	1888	4	ジ ャ ッ ク	森 の 中	1871				
5	"	房 州 波 太 村	"	5	デ イ ア ズ	森 の 中 の 農 婦	1868				
6	足立源一郎	水 郷 初 夏(中州)①	1955	6	ド ビ ニ 一	ヴァルモンドワの小川	1847				
7	"	" ( " )②	"	7	ト ロ ワイ ョ ン	河 辺 の 道	1860～65頃				
8	石橋武治	白 鷺 の い る 風 景	1953	8	フ オ ン タ ネ ー ジ	木 立	1868～72頃				
9	"	水 辺 初 夏		9	"	川 辺 の 二 頭 の 牛					
10	大久保作次郎	海 水 浴 帰 り	1917	10	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃				
11	大崎善生	十 二 橋	1950頃	11	ル ソ ー	バルビゾンの農場					
12	"	初 秋 水 郷	1989	12	浅井忠	婦 人 像	1907				
13	三田康	廃 墟	1965	13	梅原龍三郎	竹 窓 読 書 図	1937				
14	"	冬 の 犬 吠 岬		14	"	皇 居	1980				
15	柴田祐作	佐 原 風 景	1980	15	安井曾太郎	熱 海 附 近	1929				
16	"	水 郷 静 日	1981								
17	高森登志夫	絵 画	1983								

## 常設 収蔵作品展（特設コーナー）

収蔵作品展（第Ⅱ期）で実施した「特設コーナー」の引き続きとして、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画の部門から、特に鑑賞の要望の高い作品を紹介した。

会 期 平成3年11月28日（木）～12月25日（水） 24日間

展示点数 41点

入場者数 23,083人

### 出 品 目 錄

#### 「特設コーナー」

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
<日本画>							
1	石井林響	漁	樵	1913頃	18	椿 貞雄	岩
2	富取風堂	朝	光	1931	19	"	鋸山から見た房総半島
3	"	葛 西 風	景	1937	20	安井曾太郎	熱 海 附 近
4	東山魁夷	春	雪	1973	<彫刻>		
5	"	秋	深	1975	1	高村光太郎	裸 婦 座 像
6	若木 山	海	女	1952	2	"	手
					3	"	大倉喜八郎の首
<洋画>							
1	クールベ	眠 る 人	1853	<工芸>			
2	"	雪 の 中 の 小 鹿	1869頃	1	香取秀真	鳩 香 炉	1949
3	コロ一	フォンテンブローの風景	1830～35	2	"	靈 獣 文 大 花 瓶	
4	"	ナボリ近郊の思い出	1860～65	3	"	菊 文 金	
5	ディアズ	森 の 中 の 農 婦	1868	4	津田信夫	一 點 玲 瓜	1934
6	トロワイヨン	河 辺 の 道	1860～65	5	"	鳳 翔 薫 炉	1937
7	フォンタネージ	牛 を 追 う 農 婦	1862頃	6	"	北 辺 夜 猫 子	1941
8	"	川 辺 の 二 頭 の 牛		<書(篆刻)>			
9	ルソ一	バルビゾンの農場		1	石井雙石	林 鳥 相 忘 不 避 人	1951
10	浅井 忠	藁 屋 根	1887頃	2	"	種	
11	"	農 婦	1902	3	"	鶴	
12	"	フォンテンブローの森	1901	<版画>			
13	梅原龍三郎	竹 窓 読 書 図	1937	1	浜口陽三	西 瓜	1955
14	"	皇 居	1980	2	"	パ リ の 屋 根	1956
15	大下藤次郎	紫 陽 花	1904	3	"	さくらんぼと青い鉢	1976
16	黒田重太郎	女 と 小 犬	1928				
17	小堀 進	逆 光	1974				



## 常設 収蔵作品展（第Ⅲ期）

常設収蔵作品展第Ⅲ期では、3コーナーに分け展示した。会期を前期・後期に分け、「表情をあらわす」をテーマに、その時々にみせる人物の様々な表情を描いた日本画・洋画の作品を、「特設コーナー」では特に鑑賞の要望の高い作品を紹介した。

また、後期途中から「屏風に表現された日本画の世界」というコーナーを増設した。中国に端を発し、平安時代から広く愛好されるようになった日本画独自の大画面の表現形態である屏風に表現された近・現代の日本画の魅力を紹介した。

会期（前期） 平成4年1月5日（日）～2月16日（日） 37日間

（後期） 平成4年2月18日（火）～3月29日（日） 36日間

「屏風に表現された日本画の世界」コーナーは、平成4年2月25日（火）～3月29日（日） 30日間

展示点数 （前期） 61点

（後期） 76点 「屏風に表現された日本画の世界」コーナーは、15点

入場者数 39,539人

## 出 品 目 錄

○印のついた作品は前期のみ展示

□印のついた作品は後期のみ展示

### 「表情をあらわす」

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
<b>&lt;日本画&gt;</b>							
①	浅井 忠	ほしき	1890～97	⑤	石井柏亭	病	児
2	五十嵐幹子	供	1951	⑥	"	船に居る	人
3	"	華	1976	7	石橋武治	泥かぶ	ら
④	石井林響	木華開耶姫	1906	8	遠藤健郎	朝市	1975
⑤	"	岩魚つり	1926	9	大久保作次郎	庭の木陰	1916
⑥	"	唐美	1913頃	10	"	お茶どき	1950
⑦	"	羅浮仙女	"	11	クールベ	眠る	人
8	稻木皓人	更衣	1973	12	霜鳥之彦	ロシアの女	1923
9	小野具定	漁村	1975	13	田中定一	私の地	1990
10	富取風堂	斜陽(夏すがた其一)	1936	14	田中善之助	パリの女	1921
11	"	夜(夏すがた其二)	"	15	椿貞雄	横堀角次郎兄弟	"
12	村松乙彦	化粧	1947	16	"	老政治家の像	1953
13	"	アイヌ	1955	17	"	水彩画家(渡辺義一君像)	"
14	横尾芳月	夕	1981	⑯	鶴田吾郎	海	女
⑯	"	春	1981	⑯	"	買出しの娘	び
16	渡辺学	川口	1976	20	"	あくび	
17	"	下総の海	1982頃	㉑	中西利雄	人	物
		女		22	鶴川誠一	ささやき	1936
				23	"	愛	
<b>&lt;洋画&gt;</b>							
①	浅井 忠	中沢岩太像	1903	24	堀江正章	西村房太郎氏祖母像	1926～30
2	"	婦人像	1907	25	宮城泰介	嘆き	1955
3	浅井 真	A嬢像	1931	26	宮嶋美明	慾望	1975
4	安藤信哉	裸婦	1938	27	"	少女像	1981
				28	柳敬助	婦人像	

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年				
29	山谷鏤一	風	1970	16	石井柏亭	信州風景	1948				
30	和田英作	塚本靖肖像	1901	17	梅原龍三郎	伊豆大仁風景	1929				
<b>「特設コーナー」</b>											
<b>&lt;日本画&gt;</b>											
①	石井林響	蓬萊仙境之図	1927	18	"	竹窓読書図	1937				
②	"	梅花小禽		19	"	皇居	1980				
③	"	桃源		20	黒田重太郎	浴後	1927				
④	"	老松白鷺之図		21	"	女と小犬	1928				
⑤	富取風堂	花	1953	22	小堀進	高原	1951				
⑥	"	"	1957	23	"	海(白浜)	1954				
⑦	"	夕	1960	24	"	雨後の山(信州)	1964				
⑧	"	親子猿	1964	25	"	山	1965				
<b>&lt;洋画&gt;</b>											
1	クールベ	雪の中の小鹿	1869頃	26	安井曾太郎	熱海附近	1929				
2	コロー	フォンテンブローの風景	1830~35	<b>「屏風に表現された日本画の世界」</b>							
③	"	ナポリ近郊の思い出	1860~65	1	浅井忠	虎	図	1902~07			
④	ジャック	森の中	1871	2	浅井忠(画) 池辺義象(歌)	貼交屏	風	"			
⑤	ディアズ	森の中の農婦	1868	3	石井林響	桃	源	1913			
⑥	ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1847	4	"	漁	樵	1913頃			
7	トロワ・イヨン	河辺の道	1860~65	5	川端玉	花鳥人物図					
8	ファンタネージ	木立	1868~72	6	寺崎広業	沙羅の樹の下	1981				
9	"	池と樹木	1870~72	7	"	赤い嶺(雪稜)	1988				
10	"	牛を追う農婦	1862頃	8	"	白い旗	"				
11	"	森の空地の農婦		9	西村昭二郎	新馬	雪	1984			
12	ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃	10	吉岡堅二			1937			
13	ルソー	バルビゾンの農場		11	若木山	常陸乙女	馬	1948			
14	浅井忠	藁屋根	1887頃	12	"	安房ノ海処女	乙女	1951			
15	石井柏亭	聖フランチェスコ寺院	1923	13	"	海上	女	1952			
				14	"	波	図	1953			
				15	"	三篋刈る信濃の女		1955			



## 特 別 展

### 英國水彩画展

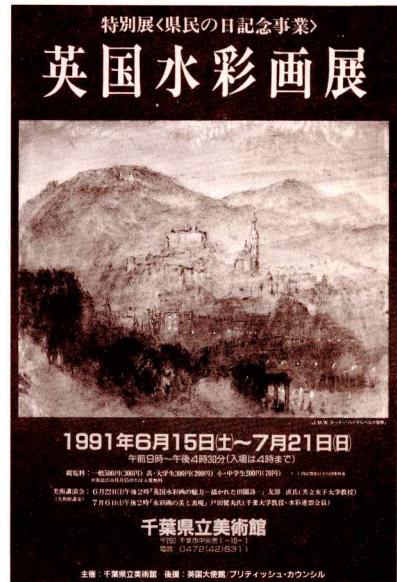
会 期 平成3年6月15日(土)～7月21日(日) 32日間  
 展示点数 106点  
 入場者数 10,309人

英國では18世紀頃から国外への旅行が活発となり、旅先での様々な記録は、携帯が楽で取り扱いの便利な水彩絵具で描かれるようになった。

これを契機に水彩による風景画が発達し、カズンズ、ターナー、ガーティン等によって精神性の高い詩情あふれる作品が生みだされ19世紀には黄金期を迎えた。

英國水彩画のもつ透明感と輝きは、後の印象派の誕生に大きな影響を与えたといわれ、我が国の水彩画の発展にも少なからず寄与している。

本展は、水彩画の有名なコレクターであるヒックマン・バイコン卿のコレクションと、フィットツウィリアム美術館所蔵の中から、18～19世紀の英國水彩画を代表する21作家の作品106点を展覧した。

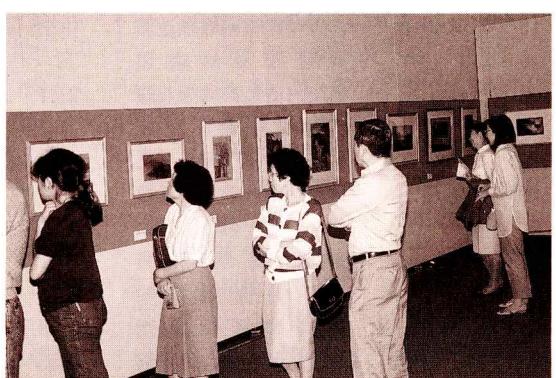


### 出 品 目 錄

No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年	No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年
1	ゲインズボロ	川辺にろばのいる森の風景	1745-50頃	23	ガーティン	オークハントン城	1799
2	"	森 の 小 道	1750代前半	24	"	グレート・ブーサム教会堂,	1790代後半?
3	"	馬蹄工小屋の外の人物と馬	1760代前半	25	"	レザーヘッド近郊	
4	アレグザンダ ー・カズンズ ロバート・ カズンズ	山羊飼いのいる広大な 幻 想 的 風 景	1740代後半?	26	"	ウォークワース城	1800
5	ネ ミ 湖 と 町	ネミ湖と町	1778	27	"	ウォーフ河	1801
6	"	ローマ、コロセウム、 地 下 回廊 の 内 部	"	28	"	コンウェイ城	1800
7	"	キケロの別邸	1779	29	"	パリ市庁とサン・ジャン・ ド・グレーヴ教会	1802頃
8	"	ネ ミ 湖	1780	30	ターナー	サン・ドニの門と街並み	1802
9	"	ガ エ 一 夕	1780代?	31	"	マームズベリー・アベイ	1791頃
10	"	ローマ、コロンナ宮の庭で	"	32	"	スクオーラ・ディ・ヴィルジリオへ の道からのナポリ湾の眺望	1794-97頃
11	"	カッшинネ近くの森から 眺めたフィレンツェ	"	33	"	カーストール・アベイ、 ヨーロクシヤー	1798
12	"	チロルのステルツィング近郊	"	34	"	大聖堂を背景にした ダラムの城	1801
13	"	イゾラ・ベッラ・マジョーレ湖	"	35	"	遠くに橋のみえる川の景色	1808頃
14	"	サレルノ湾: ヴィエトリ から眺めたライトの町	1780代後半	36	"	ローズヒル	1810
15	"	北からのウィンドミア湖の眺め	1790代初め?	37	"	ブリクサムから眺めた トーネー	1816-17頃
16	ローランソン	宿に着いたローランソンと ウイグス テッド	1784頃	38	"	ワーテルロー古戦場	1817頃
17	"	二人の家畜商人と荷馬車	1790頃	39	"	ライン川に臨む ブリューダーブルゲン	"
18	モンロー	木立のある風景	40	"	"	ハドローの滝	"
19	デ イ ズ	グラフ城、ウェストモーランド	1790代初め	41	"	突堤を吹き抜けるスコール	1820-25頃
20	ガーティン	ベリー・ボメイ城、デヴォン	1797-98頃	42	"	ジエノバ(?)	1828頃
21	"	グレートパークから眺めた ウイギンザーキー城	1798	43	"	オー湖にかかる虹	1831頃
22	"	エセックスの風車	1798-99頃	44	"	浜辺に人物のいる夕景	1830代
						波 の 習 作	"

No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年	No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年
45	ターナー	日 没	1830代	78	ヴァーリー	ドルゲリー近くの水車場	
46	"	アクロボリスから眺めたシント	1832頃	79	ド レ ル	田舎道を行く羊飼いと羊の群	
47	"	川辺にボブラのある山景	1834頃	80	コックス	ドルバーデン城、ノース・ウェールズ	1811
48	"	月明りのなかの山景	"	81	"	荒野に立つ人物	"
49	"	アオスタ渓谷の一情景	1836頃	82	"	ペンブローク城	1811頃
50	"	海辺の、難破船救援の人々	1840頃	83	"	城下の川辺にいる人たち	1820代
51	"	ルツェルン湖上の汽船	1841頃	84	"	樹の繁る川辺の牛	"
52	"	ブリエンツ湖	1841	85	"	樹の繁る谷、夕暮	1830代
53	"	断崖にそびえる城	1844頃	86	"	ボルトン・アベイ	1840代
54	"	ハイデルベルグ風景	1844頃	87	"	ファーネス・アベイ	"
55	"	海 の 日 没	1845-50頃	88	"	木立に建つ教会の塔の習作	
56	"	雲と湿った砂地の習作	"	89	"	犬を連れた羊飼いと羊の群がいる森の風景	
57	"	赤と青に染まつた海上の日没の空	"	90	"	嵐の中でビートを採る人たち	
58	クローム	枯れたオークの樹	1808頃	91	"	ウェールズの広大な風景	
59	"	オークの樹と柵	1808-09頃	92	プラウト	デヴォン地方、リンカーンの洗濯女	
60	コットマン	ブレックノック	1801?	93	ウイント	川からのリンカーンの眺め、夕暮	1820頃
61	"	月明りのティンターン・アベイ	1802頃	94	"	ナイシエルムズにある陸揚げ人の風車	1820代?
62	"	ペドラムの高炉、ショッップシャーのアイアンゲート近郊	1802頃?	95	"	ニースの谷、スウォンジー	1830代?
63	"	ノーウッド教会、ミドルセックス	1803	96	"	ペンリーン城	"
64	"	ウォーフ河流域	"	97	"	湖に流れこむ川のある風景	
65	"	滝	"	98	"	ウェーラークリーズ付近の川沿いの樹の々	
66	"	ニューブリッジ、ダラム	1805頃	99	"	グラストンベリー	
67	"	グリータ川近辺の樹々	"	100	"	公園の木	
68	"	ノリッジ大聖堂の内陣仕切り	1806-07頃	101	"	クリーヒルズ、シェロップブシャー	
69	"	建物のそばに人物のいる森の風景	1820代初め?	102	ボニントン	フォール・ルージュ、カレー	1820代
70	"	ドンフロンの城壁の上で休む人たち	1820-23頃	103	"	邱の中の砦からの船積み	"
71	"	小舟に人影のみえる川の風景		104	ホランド	トレス・ベドラス	1839
72	"	風車と川辺に立つ人物	1828-32頃	105	ボイス	前景に耕す人と並木道に旅人がいるフランスの村の風景、近づく風	
73	"	人物のいる公園の風景	1830代後半?	106	ラスキン	山並み、ルッカから西を望む	1882
74	"	ダウンズにて	1838-41頃				
75	"	森陰の沼地	1840頃				
76	エドリッジ	カシオペリー公園					
77	フランシア	木橋に立つ人物のいる風景					

No.32, 34~39, 46, 49, 54はフィットウィリアム美術館蔵、他はペイコン・コレクション。



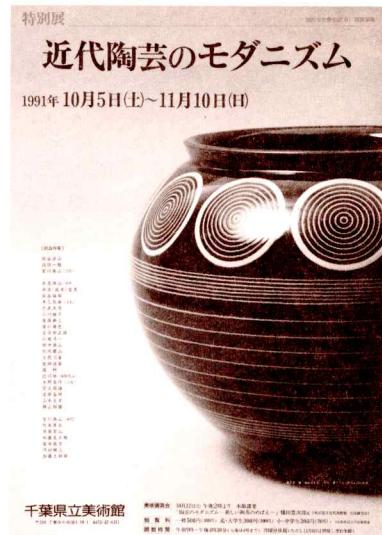
# 近代陶芸のモダニズム

会 期 平成3年10月5日(土)～11月10日(日) 32日間  
 展示点数 163点  
 入場者数 5,431人

昭和2年、帝展第4部(美術工芸)の設置は、陶芸の近代化を促進する大きな契機となった。また同年、関東周辺の陶芸家によって組織された東陶会もまた、従来の西日本、特に京都を中心とした陶芸界に対して新風を吹き込むとともに、優れた陶芸家を数多く輩出し、陶芸界の発展の一翼を担った。

千葉県においても、横山朝陽、宮之原謙、土肥刀泉、山本正年らがこれに参加し、本県陶芸界の基礎を築くとともに近代陶芸の発展に寄与した。

本展は、主に戦前の東陶会に参加した陶芸家を中心に紹介したほか、関東で近代陶芸の基礎を築いた明治時代の陶芸家から、東陶会と同時代に到る陶芸家たちも併せて紹介し、陶芸の近代化を再確認した。



## 出 品 目 錄

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	No.	作 家 名	作 品 名	制作年
1	板谷波山	白磁葡萄唐草浮文壺		26	井高富美	彩磁染付額皿「芙蓉」	1935～44
2	"	葆光彩磁ハツ手葉花瓶	1913	27	"	「牡丹」	"
3	"	彩磁延寿文花瓶		28	板谷梅樹	モザイク飾簪	1936
4	"	花いれ		29	"	ランプシェード	1935～44
5	"	朝陽磁鶴首花瓶	1938	30	"	モザイク額(孔雀)	1945～54
6	"	彩磁延寿文水指	1942	31	井上良齋 (3代)	彫唐草文瓶掛	
7	"	彩磁香炉三生果	1948	32	"	葆光磁耳付花鳥彫花瓶	
8	沼田一雅	胡砂の旅	1937	33	"	結晶釉耳付花瓶	
9	"	栗鼠		34	"	緑釉耳付花瓶	
10	"	親子鶴		35	"	波文象嵌壺「海」	
11	"	馬		36	"	白磁十二稜水指	
12	"	駝鳥		37	"	白磁花瓶	
13	"	象亀		38	大森光彦	真紅列線文様壺	1934
14	"	象		39	"	草文水指	1936
15	宮川香山 (2代)	青磁釉紅象嵌鳳凰遊環	1928	40	"	里の幸透彫飾壺	
16	"	青磁鳳凰耳遊環	"	41	"	双鹿彫文花瓶	
17	"	色染付椿に群鳥図花瓶	1931	42	"	卵殻鶴首花瓶	
18	"	黄釉青華菊画花瓶		43	"	青磁花瓶	
19	"	色絵君美人図遊環耳花瓶		44	"	磁器結晶釉草文壺	
20	井高帰山 (初代)	黄磁蘭玉散らし紋香爐		45	小川雄平	軍鶴置物	1931
21	"	蕨耳附富士おろし花生	1940頃	46	"	陶製黒豹置物	1933
22	"	青磁鳳凰花瓶	1941	47	"	白象置物	1943
23	"	三明月光磁香炉	1943	48	"	七面鳥置物	1935～44
24	"	觀音經経筒水指	1953	49	"	犬置物	"
25	井高富美	磁製紅紫釉高台付水盤	1933	50	各務鑛三	花器	1928

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
51	各務鑛三	花器 (人物)	1930	99	宮之原 謙	鉄釉牡丹唐草彫文壺	
52	"	花器	1933頃	100	"	象嵌磁盛上花蝶鉢	
53	唐杉濤光	辰砂花型香爐	1944	101	"	牡丹文盛上水指	
54	"	辰砂花瓶		102	"	鉄釉象嵌草蛾皿	1946
55	"	蝶文三島手花生		103	"	彩盛磁海女壺	1952
56	古宇田正雄	白磁ねむだか水唐草彫香炉	1947頃	104	"	彩盛磁菖蒲花瓶	1954
57	"	堆彩磁薊文彫花瓶	1945~54	105	"	象嵌磁泰山木飾壺	1955
58	"	瑠璃釉夕顔文花瓶	1956	106	"	彩土盛葉陰大皿	1957
59	"	堆彩磁百合文彫花瓶	1955~64	107	"	釉彩海底壺	1958
60	"	白磁百合文彫花瓶	1965~74	108	"	釉彩壺「山」	1960
61	小柴外一	女の横顔置物		109	"	窯変釉百合彫文壺	1964
62	"	置物「鯉」	1940頃	110	"	天目朱釉獅子手付花瓶	1966
63	"	ひまわり文花器		111	"	白磁大壺	1968
64	竹内蘭山	獅子	1935~44	112	"	線象嵌窯変丸壺	"
65	"	陶製ブックエンド		113	"	象嵌磁笛文花瓶	1968
66	"	ラジオカバー		114	"	古代釉三ツ足香炉	1971
67	田中穂山	染付松竹梅図建水	1935~44	115	"	金彩サボテン壺	"
68	"	伊羅保花瓶		116	"	金彩モスク壺	1972
69	"	天目釉面とり花瓶		117	"	朝霧釉香炉	1975
70	土肥刀泉	菊文染付花瓶	1935~44	118	"	釉彩象嵌磁スポーツ壺	1976
71	"	鳳凰彫文捻六角青磁水指	"	119	"	象嵌磁泰山木大皿	"
72	"	双魚文吾妻花瓶		120	"	彩盛磁バラボラ文香炉	"
73	"	琅瓷釉彩花瓶		121	"	彩盛磁アジサイ文香炉	"
74	"	辰砂長首花瓶		122	安原喜明	鉄砂釉葡萄文花瓶	1930頃
75	"	紺琅瓷釉花瓶		123	"	乳白釉葡萄文水注	"
76	"	窯変辰砂香炉		124	"	足付飾皿	"
77	"	窯変琅瓷釉手付花瓶		125	"	窯変青釉花生	"
78	"	釉彩両耳花瓶	1967	126	"	線彫文窯変釉花器	1940
79	"	琅瓷釉彩花瓶	1974	127	"	焼締花器・港	1954
80	塗師淡斎	鳥獸文花瓶		128	"	石器花挿・種子の旅	1967
81	"	白磁蓮瓣茶碗		129	山本正年	黎明	1953
82	"	倣古染付龍文水指		130	"	花生	
83	塙好	鉄釉椿彫文壺		131	"	トルコ青鉢	
84	"	鉄釉菊花線文壺		132	"	瑞光	
85	"	蛙蓮葉燭台		133	"	膚	
86	辻川涉 (福田光山)	油滴天目鳥文花瓶		134	横山朝陽	石爆斑唐津茶碗	1955~64
87	"	玳皮天目鶴文花生		135	"	唐津皮鯨平茶碗	"
88	"	朝霧天目鷺草花瓶		136	"	黒楽筒茶碗「破れ衣」	"
89	水野喜作 (2代)	鉄絵湯呑(5客)		137	"	伊羅保茶碗	"
90	"	銹絵梅文皿		138	"	白釉草花紋皿	1967頃
91	宮之原謙	赤鉄結晶釉竹文壺	1929	139	"	葡萄文搔落花瓶	1968頃
92	"	釉嵌十字星結晶花挿	1932	140	"	吹墨六角水指	1970頃
93	"	釉象嵌「蘭」小香炉	1935	141	"	草花文搔落花瓶	1974頃
94	"	釉象嵌「梅」小香炉	"	142	"	白釉線文鉢	1975
95	"	釉嵌渦文壺	1939	143	"	草花文搔落花瓶	1976
96	"	鉄釉花瓶	1940	144	宮川香山 (初代)	黄釉黒絵梅樹文壺	
97	"	鉄磁盛上晶文壺	1941	145	"	山水之図花瓶	
98	"	盛上磁葡萄唐草壺		146	"	青磁耳付大花瓶	

No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年	No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年
147	竹本隼太	辰 砂 釉 瓶		156	河村蜻山	瑠璃磁群鷺図花瓶	1933
148	"	黒釉茶斑文瓶		157	"	染付松の図大皿	1941
149	市塚紫山	色絵金彩豊稔祭手踊図花瓶		158	"	青磁龍耳唐草文花瓶	1953
150	"	色絵金彩雲龍図花瓶		159	"	染付花瓶「蒼生」	1959
151	加藤友太郎	色 絵 鳥 柿 図 壺		160	"	洋 花 花 瓶	1965
152	"	色絵朝顔文手桶形花生	1903頃	161	加藤土師萌	紅彩草花文広口花器	1951
153	富本憲吉	白 磁 八 角 壺	1932	162	"	白磁金彩梅松文花瓶	1953
154	"	色絵「春夏秋冬」字瓢形飾壺	1939	163	"	紅地金欄手菊花文飾壺	1961
155	"	色絵金銀彩羊齒文飾壺	1958				

### ●所蔵機関等

東京国立博物館 No.1, 144, 147, 148, 151 茨城県近代美術館 No.2, 3, 58 東京都美術館 No.4  
 京都国立近代美術館 No.5, 7, 8, 39, 159 東京国立近代美術館 No.6, 23, 126, 127, 155, 163  
 福井県陶芸館 No.9~14 横浜市 No.15, 16, 18 東京芸術大学芸術資料館 No.17, 95, 152  
 神奈川県立博物館 No.19, 31~34, 145, 146, 160 目黒区美術館 No.24, 125, 128  
 横浜美術館 No.35~37, 161, 162 辰野町立辰野東小学校 No.38, 42 辰野町平出区 No.40  
 辰野町郷土美術館 No.44 岩城硝子株式会社 No.48, 49 サントリー美術館 No.51 笠原町役場 No.52  
 千葉市教育委員会 No.70, 71, 76, 79 鹿児島市立美術館 No.91, 93, 94, 96, 97, 102~121 千葉農業会館 No.133  
 市川市教育委員会 No.138, 141, 143 奈良県立美術館 No.153, 154 京都市美術館 No.156 興陽寺 No.157  
 千葉県立美術館 No.78, 132

(順不同)



# 企画展

房総の美術家シリーズ－21－

## 安藤信哉展

会期 平成3年7月27日(土)～9月8日(日) 38日間

展示点数 57点

入場者数 22,102人

安藤信哉(1897～1983)は、夷隅郡東海村若山(現大原町)に生まれ、幼少期を房総の地で過ごした。後に、一家と共に茨城県水海道市に転居し、県立水海道中学校(現県立水海道一高)を卒業後、教職に就く。教員を務める一方で、本郷洋画研究所をはじめ、当時のさまざまな絵画研究所に通い、絵画研究を続けた。昭和2年教職を辞して、画業に専念、同4年第10回帝展に出品した「友の像」が初入選、以後連続して入選を続け、13年第2回新文展で「画室にて」が特選となる。33年日展会員となり、評議員を経て参与を歴任、永く中央画壇での活躍が続いた。

本県においては、昭和24年第1回県展に際し、運営委員、審査員さらに、第8回展の抽象系洋画部の審査員をつとめるなど本県美術界の振興と後進の育成に尽力した。

本展では、初期のアカデミックな画風から、重厚な抽象的画風を経て、晩年の透明感溢れる色彩豊かな画風に至るまで、安藤信哉の作品を一堂に紹介し、その60余年の画業を回顧した。



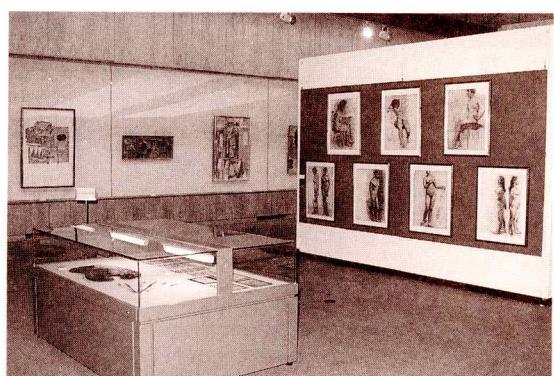
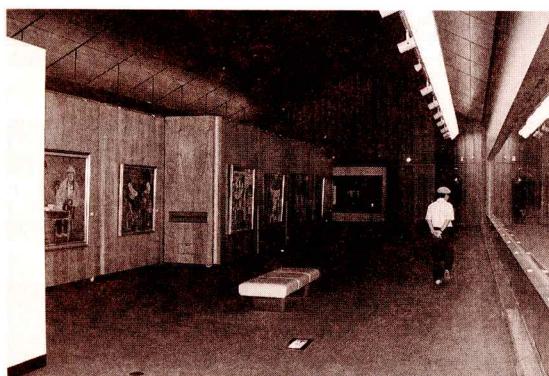
## 出品目録

No.	作 品 名	制作年	所 �藏	No.	作 品 名	制作年	所 藏
「油彩」							
1	自 画 像	昭和初期	茨城県近代美術館	19	郊 外 の 家	1962	
2	友 の 像	1924	"	20	スペイン風景	"	
3	顔	1930		21	窓	"	
4	画 室 に て	1938	京都市美術館	22	ヨーロッパ風景	"	
5	裸 婦	"	千葉県立美術館	23	アルカントラの橋	"	
6	滯 船	1945～1947		24	一 隅	1963	茨城県近代美術館
7	曠 野	1955	茨城県近代美術館	25	室 内	1964	
8	裸 婦	1956	"	26	画 室 に て	"	茨城県近代美術館
9	二 人	1957	千葉県立美術館	27	壁	1965	
10	庭	1958		28	一 隅	"	
11	石	1959		29	軍 手 庭	1967	千葉県立美術館
12	作 品 B	1960	茨城県近代美術館	30	雪 の 庭	"	
13	室 内	"		31	室 内	1968	千葉県立美術館
14	牧 歌	"	千葉県立美術館	32	梅 花	1970	
15	静 物 ・ 棚	1961		33	花 束	"	
16	伝 説	1962	茨城県近代美術館	34	雨 の 日	"	
17	パ リ の 窓	"	千葉県立美術館	35	少 女	1970頃	
18	公 園 (秋)	"		36	ね が い	1974	
				37	公 園	"	

No.	作 品 名	制作年	所 �藏	No.	作 品 名	制作年	所 藏
38	室 内	1974		50	静 物	1977	
39	"	1975	千葉県立美術館	51	"		
40	蓮	1977	"	52	"		
41	自 画 像	1980頃		53	"		
42	画 室 に て	1981	茨城県近代美術館	54	み な と		千葉県立美術館
43	早 春	1982	"				
44	一 隅	1983	"		「墨・着彩」		
45	ト ラ ン ク			55	静 物	1980頃	茨城県近代美術館
46	蓮			56	"	"	
47	画 室 に て			57	蓮	"	
48	静 物 紫				デ ツ サ ン ス ケ ッ チ		

「水彩」

49 ヨットハーバー 1977



— 21世紀への飛躍 —

## 第5回現代日本具象彫刻展

会 期 平成4年2月1日(土)～2月23日(日) 20日間  
展示点数 52点  
入場者数 13,661人

現代日本具象彫刻展は「21世紀への飛躍」をテーマに具象彫刻作家に作品発表の場を提供し、現代具象彫刻界の発展に寄与することを目的とし、親しみやすい具象彫刻作品を通して、県民の心にうるおいと豊かさを育む機会として開催するものである。

第5回目をむかえた今回は、規格等の規定を変更したことが応募者に受け入れられたためか、過去最高の146点の応募が全国各地から寄せられ、審査の結果、大賞1点、優秀賞2点、入選49点が選ばれた。なお、今回は主催／千葉県教育委員会、運営／千葉県立美術館とした。

審査員 小川正隆、○嘉門安雄、弦田平八郎、富山秀男、  
中村傳三郎、本間正義、三木多聞(五十音順)

○印は審査会長



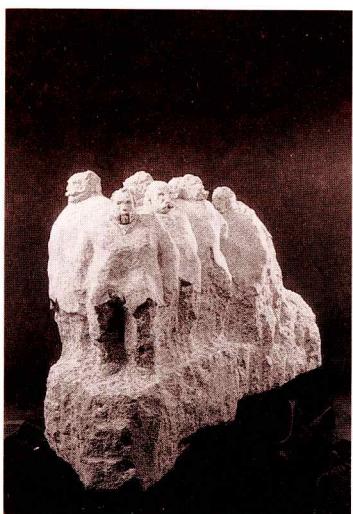
## 出 品 目 錄

No.	作 家 名	作 品 名	No.	作 家 名	作 品 名
<大賞>					
1	工 藤 健(埼玉)	愁いのマンドーラ	20	栗 山 勉(兵庫)	虹を駆けける
<優秀賞>					
2	零駒無藏(香川)	集う人々の列に……	21	小 林 淳一郎(東京)	背後にあるもの
3	綿引道郎(千葉)	詩人一生を見つめて	22	佐 伯 皖子(愛知)	アルファルド
<入選>(五十音順)					
4	青 野 正(東京)	遠い・遠い・遠い青空	23	佐 藤 淳一(宮城)	幻影
5	赤 泊 刚(千葉)	ト ル ソ	24	城 田 孝一郎(東京)	華のころ
6	荒 井 俊也(宮城)	モ ラ ン	25	高 濱 英俊(〃)	重圧
7	飯 塚 二郎(京都)	地下からの視線 91-1	26	竹 内 不忘(〃)	かたら
8	市 村 純郎(埼玉)	風の音	27	竹 村 芳樹(神奈川)	赤い狩人像
9	伊 東 敏光(東京)	「具想」手の中の湖	28	竹 屋 修(岐阜)	残
10	植 木 孝二(神奈川)	CONN ICHIWA	29	田 中 充樹(香川)	月のうさぎの耳はよくまわる
11	海老根 美奈子(茨城)	W O M A N	30	玉 野 勢三(京都)	cathedral
12	大 城 章二(埼玉)	風影	31	田 宮 美弘(東京)	果宝花
13	大 平 恵祥(宮城)	源氏の愛した女達	32	田 村 智義(〃)	弓
14	大 橋 博(東京)	H O U S E	33	富 岡 尚子(埼玉)	秋の川
15	小 笠 原 健二(〃)	かげろう	34	西 村 文男(〃)	夢追人 II
16	岡 本 鍛二(茨城)	無風	35	二 藤 規朗(〃)	La st bi p i s
17	荻 野 弘一(新潟)	円(B e g i n)	36	葉 栗 刚(愛知)	HUMAN - 木歌人
18	小 野 雄二(神奈川)	躊躇(へそ)	37	長 谷 川 大治郎(石川)	立つ形体(思考)
19	北 郷 悟(千葉)	いざなぎ、いざなみ(神話)	38	波 多 野 泉(埼玉)	無心ということ(蝶)
			39	服 部 八美(岐阜)	地の隠喻
			40	早 川 荣二(千葉)	ヤドカリ
			41	羽 山 隆(埼玉)	CONSTRUCTIVE WOMAN

No.	作 家 名	作 品 名	No.	作 家 名	作 品 名
42	伴 正 史(長 野)	人 「レクイエム」	48	三 木 勝(神奈川)	月 「紙ふうせん」
43	一 錄 田 徹(千 葉)	亀 裂 と・飽 和 と・	49	柳 川 貴 司(東 京)	列 過 ギ つ ゆ り ゆ く こく とも
44	藤 木 康 一(東 京)	休 息	50	山 田 琢 ( " )	柱 の 行
45	細 井 良 雄( " )	とびたい・ガルダのように	51	山 田 瑞 子( " )	航
46	正 木 高 志(石 川)	R E M I N D	52	吉 原 和 夫(千 葉)	遠 い 日 の う た
47	松 本 光 司(愛 知)	風 の 車・91・K			



工藤 健「愁いのマンドーラ」



零駒無藏「集う人々の列に……」



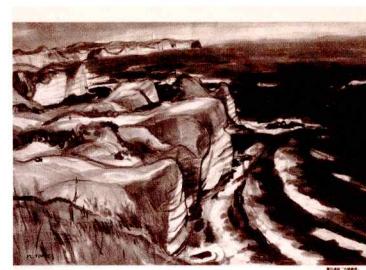
綿引道郎「詩人－生を見つめて」



## 第15回 千葉県移動美術館

会 場 ①旭市民会館  
②鴨川市民ギャラリー  
会 期 ①平成3年10月30日(水)～11月12日(火)  
② “ 11月15日(金)～11月25日(月)  
展示点数 ① 46点 ② 46点  
入場者数 ① 1,100人 ② 1,591人

館収蔵作品を中心に県展受賞作品の一部を加えて移動展覧を行い、  
美術品が身近に鑑賞できる機会を提供した。



### 出 品 目 錄

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	No.	作 家 名	作 品 名	制作年				
<b>「館収蔵作品」</b>											
<日本画>											
1	富取風堂	漁港の夕	1950	1	高村光太郎	裸婦座像	1916頃				
2	島田良祐	海近き村	1954	2	毛利教武	手	1919				
3	立石春美	狗	1967	3	長谷川昂	富樓那	1976				
4	渡辺 学	川口	1976	4	舟越保武	婦人像	1985				
5	松尾敏男	原野	1971	<彫刻>							
<洋画>											
1	浅井忠	フォンテンブローの夕景	1901	1	香取秀真	笑獅子香炉					
2	都鳥英喜	巴里郊外サンクール	1920	2	津田信夫	鳳翔薰炉	1937				
3	吉田博	雨後の穂高山	1927	3	宮之原謙	象嵌磁鉢	1968				
4	石井柏亭	信州風景	1948	4	香取正彦	臘銀玉錯花瓶	1979				
5	霜鳥之彦	緑のスウェーター	1923	5	大須賀喬	蝶文黒銅香炉	1983				
6	安井曾太郎	熱海附近	1929	6	秋山逸生	木画箱	1969				
7	梅原龍三郎	伊豆大仁風景	“	7	信田洋	黒孔雀の瓶	1967				
8	原勝郎	モンマルトル	1930	8	神谷紀雄	鉄絵銅彩椿紋壺	1987				
9	石橋武治	筑波遠望	1953	<工芸>							
10	大久保作次郎	丘上の鐘楼		1	香取秀真	笑獅子香炉					
11	林倭衛	岩和田海岸		2	津田信夫	鳳翔薰炉					
12	中西利雄	曇り日の離宮と駅	1947	3	宮之原謙	象嵌磁鉢					
13	富田通雄	外房鵜原	1964頃	4	香取正彦	臘銀玉錯花瓶					
14	小堀進	セヌ川	1973	5	大須賀喬	蝶文黒銅香炉					
15	大崎善生	初秋水郷	1989	<書>							
<版画>											
1	浜口陽三	さくらんぼと青い鉢	1976	1	浅見喜舟	ト居	1980				
2	星裏一	王の樹	1976	2	大石隆子	待君	1975				
3	牛久健治	ゆうえんち	1983	3	高澤南総	桃李争妍	1970				
4	深沢幸雄	戦慄(トルソ)	1973	4	鈴木方鶴	壺中日月長	1984				
5	池田満寿夫	シンデレラの広告	1966	<第43回県展作品>							
1 祖父江勇 溜り (日本画・県展賞)											
2 黒田邦裕 群像 (彷彿) (洋画・県展賞)											
3 明石研一 峭崖 (工芸・県展賞)											
4 檜山筑泉 漫成 (書・県展賞)											
5 村上純子 二つのバイオリン (洋画・文部大臣奨励賞)											

## 普 及 事 業

美術講演会は、展覧会に併せ年5回開催した。

実技講座は、経験者を対象とした美術館講座7種9講座（延90日）を開催した。

図書は、年間338冊収集し、現在3,945冊を収蔵し、情報資料室に於いて県民の利用に供している。

刊行物は展覧会に併せた図録、チラシ、ポスター、目録、更に館報2回、房総の美術史12回、年報、事業案内、館概要などを刊行した。

そのほか、調査研究員会議を3回実施し、児童生徒に対する美術館利用の普及方法について話し合った。また、友の会事業による初心者を対象とした実技講座2種6講座（延32日）、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ（5大学7人）などに協力した。

## 教育普及

### 美術講演会

美術に対する関心や理解を深める機会として、展覧会に併せて美術講演会を実施した。各講師ともスライドを用いて講演を行った。

特別展「英國水彩画展」では、会期中2回の講演会を開催した。まず6月22日の共立女子大学教授友部直氏による英國水彩画やその芸術を育んだ風土性、時代背景などにわたる講演は、我が国の明治以降の水彩画の発展に寄与しながらも、今日では比較的馴染みの薄い英國水彩画を再認識・再評価する機会となった。次いで7月6日に千葉大学教授で水彩連盟会員の戸田健夫氏が、水彩画の魅力について、自己の制作活動の体験談や、我が国の近現代の代表的な水彩画家の紹介と作品技法の解説などにより、幅広い視点から多彩な水彩画の表現をわかりやすく語った。

企画展「安藤信哉展」では、8月10日に開催した。安藤信哉の属した創元会の先輩後輩の間柄で、彼の作品や人柄を知る洋画家工藤和男氏が、本展で展示されている作品を例に挙げ、各作品の特徴をとらえて、その優れた色彩感覚や技量の豊かさを語ったほか、美術教育者としての活動についても触れ、多大な業績を浮き彫りにした。

特別展「近代陶芸のモダニズム」では、10月12日に東京国立近代美術館主任研究官の樋田豊次郎氏が、明治以降の工芸図案の変遷や特徴などを詳細に解説し、工芸の西洋的な図案の移植による新たな展開や多様な表現などを具体的に示しながら、モダニズムの概念について言及した。

企画展「第5回現代日本具象彫刻展」では、2月15日に美術評論家の本間正義氏が、これまでに行われてきたわが国の各種彫刻コンクールの内容や特色について詳細に触れるとともに、現代における自治体の町づくりと野外彫刻の結びつきや意義などについて豊富な例を上げながら話を展開した。



No.	期日	演題	講師	聴講者数
1	6月22日(土) 2時～4時	英國水彩画の魅力—描かれた田園詩	友部 直 (共立女子大学教授)	152人
2	7月6日(土) 2時～4時	水彩画の美と表現	戸田 健夫 (千葉大学教授) 水彩連盟会員	173人
3	8月10日(土) 2時～4時	安藤信哉 — 人と作品	工藤 和男 (洋画家)	147人
4	10月12日(土) 2時～4時	陶芸のモダニズム—新しい陶芸のめばえ	樋田豊次郎 (東京国立近代美術館) 主任研究官	76人
5	2月15日(土) 2時～4時	現代野外彫刻の現状	本間 正義 (美術評論家)	83人

## 実技講座

### (1) 日本画講座

期　　日 平成3年6月5日(木)・6日(金)・7日(土)・8日(日)・11日(火)・12日(水)・  
13日(木)・14日(金)・15日(土)・18日(火)・19日(水)・20日(木)  
(12日間／うち講師指導日数8日間)

講　　師 齊藤　惇氏

受講者数 20人

内　　容 経験者を対象として、花・くだもの・人物等のモチーフにより制作した。同時にドーザの作り方・絵の具・にかわ・筆・紙等の材料・道具の取り扱い方など基礎的な学習の後、彩色の技法について学習した。



### (2) 洋画講座

期　　日 第1期 平成3年6月18日(火)・19日(水)・20日(木)・22日(土)・23日(日)・  
25日(火)・26日(水)・27日(木)・29日(土)・30日(日)  
第2期 平成3年7月10日(火)・11日(水)・12日(木)・13日(土)・17日(火)・  
18日(水)・19日(木)・20日(土)・24日(木)・25日(火)  
第3期 平成4年1月22日(火)・23日(水)・24日(木)・29日(水)・30日(木)・  
31日(金)・2月5日(火)・6日(水)・7日(木)・9日(火)  
(各10日間／うち講師指導日数は各7日間)

講　　師 第1期 熊谷　文利氏  
第2期 松沢　茂雄氏  
第3期 戸田　健夫氏

受講者数 第1期 30人  
第2期 32人  
第3期 26人

内　　容 経験者を対象として第1期は花・人物を、第2期は、人物を第3期(水彩)は静物、人物をそれぞれモチーフとして、デッサン、構図、彩色などの基礎的技法とより幅広い表現について学習した。



### (3) 版画講座

期　　日 平成3年5月16日(木)・17日(金)・18日(土)・21日(火)・22日(水)・23日(木)・  
24日(金)・25日(土)・28日(火)・29日(水)・30日(木)・31日(金)  
(12日間／うち講師指導日数は7日間)

講　　師 増田　陽一氏

受講者数 16人

内　　容 経験者を対象として、銅板・亜鉛板を素材に、凹版画の制作を通して材料や用具の扱い方、エッチングやアクアチントなどの各技法、更に刷りの技法について学習した。



#### (4) 彫刻講座

期　日 平成3年8月2日(金)・3日(土)・4日(日)・6日(火)・7日(水)・8日(木)・  
9日(金)・11日(日)・21日(木)・22日(金)・23日(金)・25日(日)  
(12日間／うち講師指導日数8日間)

講　師 渋谷 三朗氏

受講者数 13人

内　容 経験者を対象として、木を素材に、人物の表現方法、更に道具の取り扱い方を学習した。



#### (5) 陶芸講座

期　日 平成3年7月3日(木)・4日(金)・5日(金)・6日(土)・9日(火)・18日(木)・  
20日(土)・24日(木)・27日(土)  
(9日間／うち講師指導日数は5日間)

講　師 明石 昇氏

受講者数 32人

内　容 経験者を対象として、信楽土を素材にかき落とし、象嵌、上絵付などをはじめ粘土、ロクロ、窯詰め、施釉、焼成等について学習した。



#### (6) 書芸講座

期　日 平成3年12月4日(木)・5日(金)・6日(金)  
(3日間／うち講師指導日数は3日間)

講　師 中村 象閣氏

受講者数 25人

内　容 経験者を対象として、漢字を中心に様々な表現について学習した。



#### (7) 金工講座

期　日 平成4年1月28日(火)・29日(水)・30日(木)・31日(金)・2月4日(火)・5  
日(水)・6日(木)・7日(金)・8日(土)・11日(火)・12日(水)・13日(木)  
(12日間／うち講師指導日数は8日間)

講　師 小林 正利氏

受講者数 15人

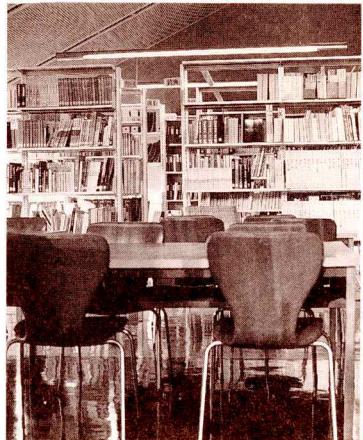
内　容 経験者を対象として、銅板のレリーフ制作の過程を通じ金工の基礎的技法とより幅広い表現について学習した。



## 情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、特別展や企画展の開催に伴い、展覧会への一層の興味と理解を深めていただくため、関係図書類のコーナーを設けるなど時宜に併せた対応に努めた。さらに、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより美術情報提供を行った。

なお、3年度の情報資料室における収蔵図書については110冊を購入、228冊を受贈し、美術情報資料の充実を図った。



## 購入

	書名	刊行年	発行所	編著者名
美術総記	キリスト教美術図典	1990	吉川弘文館	柳宗玄、中森義宗
	バウハウス叢書（1巻）	1991	中央公論美術出版	ヴァルター・グロビウス
	〃（2巻）	〃	〃	パウル・クレー
	〃（5巻）	〃	〃	ピート・モンドリアン
	蘇る名画	1990	求龍堂	黒江光彦、森角勝
	岩崎日本美術の流れ4	1991	岩波書店	中島純司
	〃5	〃	〃	辻惟雄
	美術の歴史（全2巻）	1990	美術出版社	H. W. ジャンソン
	ケンブリッジ西洋美術の流れ1	1991	岩波書店	スーザン・ウッドフォード
	〃3	〃	〃	ローザ・マリア・レッツ
	〃5～8	1990～1991	〃	スティーヴン・ジョーンズ、 ドナルド・レノルズほか
	中国博物館総覧（下巻）	1990	中国博覧館総覧刊行委員会	中国博物館総覧刊行委員会
	美術経済白書	1991	美術年鑑社	瀬木慎一
絵画	コレクション瀧口修造6	〃	みすず書房	大岡信ほか監修
	一九二五年様式アールデコの世界	1987	岩崎美術社	イヴォンヌ・ブリュナメエル
	大系世界の美術（全20巻）	1990	学習研究社	木村重信ほか
	ダリ全集（全3巻）	1989	講談社	ロベール・デシャルヌ
	バルテュス画集	〃	リヴィロポート	ジャン・レイマリー著 アール・ヴィヴァン編
	モダンマスターズシリーズ	1990	美術出版社	アンドリュー・ケガン
	マルク・シャガール	〃	〃	ローラン・アロウェイ
	ロイ・リキテンスタイン	1991	〃	エリック・シェインズ
	コンスタンチン・ブランクーシ	〃	〃	カレン・ウィルキン
	ディヴィッド・スマス	〃	郷土出版社	青木茂監修
絵具の科学	画集山本芳翠の世界	〃	中央公論美術出版	ホルベイン工業
	絵具の科学	〃	集英社	宇佐美承
	池袋モンパルナス	1990	小沢書店	酒井忠康
	遠い太鼓	〃	MPC	リース・ド・ブレイ
	ボタニカル・アート	〃	中央公論美術出版	坂本一道ほか
	明治前期油画基礎資料集成研究篇、図版篇	1991	洛陽堂	竹久夢二
	夢二画集春の巻	1910	〃	〃
	〃旅の巻	〃	〃	〃
	〃野に山に	1911	大日本絵画	菱田春夫
	菱田春草	1989		

受贈

書名	刊行年	発行所	編著者名
美術総記 THE HUMAN FORM IN ART	1976 1970 1935 1929 1991 1924 1974 1991 1986	THE BODLEY HEAD LIMITED	ARMAND・BRAUN・ADOPRHE
美の宝庫		美術年鑑社	根岸秀行編
世界のにっぽん 次代を担う作家たち		美術報知社	国際エージェンシー編
樂浪及高句麗古瓦図譜		便利堂	諸岡榮治編
鑑鏡 日本考古圖録大成（第二輯）		日東書院	大庭磐雄著 廣田猪吉編
ギャラリー 91 美術年鑑		ギャラリーシルバー企画	寺本幸敏編
埃及希臘波斯古匁金石大觀		山中商會	太陽出版社編輯局編
東京美術青年会 欧州旅行記		平野龍夫	
全国美術館めぐり		厚生年金事業振興団	
伝承を考える II		うらべ書房	平野馨

書名		刊行年	発行所	編著者名
美術総記	日本文化史 VISIONS OF JAPAN	1978	創元社	歴史学会編
	日本芸術院史 〃 資料編	1979 1980	日本芸術院 〃	日本芸術院編 〃
	神奈川県美術風土記幕末明治拾遺篇 〃 明治大正篇	1974 1971	有隣堂	神奈川県立近代美術館編 〃
	日本美術年鑑昭和48年版 〃 昭和49、50年版	1974	東京国立文化財研究所	東京国立文化財研究所美術部編 〃
	大分県史美術篇	1981	大分県	大分県総務部総務課
	日本刀鑑定要訳	1982	雄山閣出版	館平吉
	師を語る一心のアルバムー オーラショングループ語	1985 1991	広論社 講談社	広論社出版局編 藤井一雄著 第一出版センター編
	日本美術年鑑平成2年版	〃	東京国立文化財研究所	東京国立文化財研究所美術部編
	〔和英対訳〕現代美術演習Ⅲ	〃	現代企画室	小林昭夫編
	秀作美術全集'90	1989	日本美術出版	
	中島千波画集	1991	求龍堂	中島千波
	早瀬龍江画集	〃	早瀬龍江画集刊行委員会	井西清子ほか
	白木正一画集	〃	白木正一画集刊行委員会	〃
	現代の日本画〔8〕杉山寧	〃	学習研究社	杉山寧野地耕一郎
絵画	岩崎巴人水彩画集	〃	秀作社	岩崎巴人
	現代日本素描全集6 東山魁夷	1992	秀ぎょううせい	東山魁夷佐々木徹
	幕末明治京洛の画人たち	1988	京都新聞社	原田平作
	京都の日本画	1991	”	島田康寛
	佐々木豊画集	〃	京都書院	佐々木豊
	廣瀬楚庵水墨画集	1985	西村愛子	廣瀬楚庵
	ひまわりーヴァン・ゴッホに捧げるー	1986	造型社	ディヴィッド・ダグラス・ダンカン
	中野淳画集	〃	アートよみうり	中野淳
	内野秀美画集	〃	内野秀美画集刊行委員会	内野秀美著 岡眞純編
	大地を行く高山辰雄中国墨画集	1987	講談社	高山辰雄著 第一出版センター編
	小松原勝市画集	1986	求龍堂	小松原勝市
	芝田米三画集	1980	”	芝田米三
	難破田史男画集	1987	講談社	菅原猛編
	河口楽土墨彩の世界	1991	日本放送出版協会	河口楽土
	金島桂華画集	1971	便利堂	金島桂華
	本朝畫家人名辭書 (上巻)	1893	大倉書店	狩野壽信編
	” (下巻)	”	”	
	宋元寫生画撰	1932	芸艸堂	岡崎義郎編
	人間辻光典詩画集	1973	天満屋	
	山田申吾	”	彌生画廊	生活社編
	中央亞細亞藝術大観(正編)	1923	平安精華社	後藤博山編
	石涛名画撰	1941	聚楽社	
	乾山妙蹟譜	1940	”	
	作品長尾みのる	1959	六藝書房	聚楽社編
	辻永画集	1991	講談社	辻永夫
	平山郁夫全集3.佛教伝来I	”	”	”
	” 4.	” II	”	”
	” 5.シルクロードI	”	”	”
	” 7.アレキサンダーの道	”	”	”

	書名	刊行年	発行所	編著者名
絵画	桜井悦画集	1991	美術出版社	桜井悦
	毛利武彦画集	"	求龍堂	毛利武彦
	365日の自画像	"	吉村芳生	吉村芳生
	松本英一郎作品集	1982		
	小杉小二郎作品集89	1989	東京梅田画廊	
	A R S M E D I C A			
	SYOSUKE OSAWA / NEW WORK	1991	S.O. 88会	大沢泰夫編
	頬璋画集	1918	芸艸堂支店	柳川弘編
	芥子園五集		上海三号江東書局	
	硯田筆畊集	1919	太安洞・白木屋吳服店美術部	安川勝太郎編
	伊牟田經正の油彩画	1990	河出書房新社	伊牟田經正
	若井正道作品集	1991	若井正道作品集刊行会	若井正道作品集刊行会編
	屏風西村昭二郎画集	"		ニューカラー写真印刷株式会社編
	笠原可雄画集	"	笠原ゑつ	(有)時の美術社
	田辺三重松	"	北海道新聞社	中塚宏行著 北海道立近代美術館編
	阪倉宜暢作品集I	"	六藝書房	
	島田良雄75画集	1990	島田良雄	
	霜鳥之彦画集	1983		霜鳥之彦遺作展実行委員会
	小山周二水彩作品集	1972	小山新	水野以文ほか編
	牧野三郎素描集	1991		
	展覧会への招待	1984	読売新聞社	村木明著 佐野寧編
	鉄砲虫の一生 九十六翁平櫛田中	1967	明治書房	新田浩
	鳥居敏文画集	1991	鳥居敏文画集刊行会	
	蟹のよこばい 福沢一郎画集	1969	求龍堂	福沢一郎
	原雅幸	1981	貢真社	飯田功編
	菊地辰幸画集 裸婦と風狂の世界	1980	同時代社	
	尋牛 平櫛田中作品集	1970	平櫛田中顕彰会	平櫛田中顕彰会
	有元利夫	1989	彌生画廊	
	米寿記念 奈良岡正夫作品集	1991	奈良岡正夫	
	大津英俊作品集 浪曼贊歌	1978	泰明画廊 彌生画廊	
	大津英俊作品集	1983	泰明画廊	
	斎藤吾朗第一画集 心の唄	1978	白桃発行所	斎藤吾朗著
	小澤敦水彩画文集	1989	小澤敦	小澤敦編
	播本脩三裸婦素描集	1984	皆美社	播本脩三
	高橋美則墨彩画集 萬葉の道	1990	講談社	高橋美則著 第一出版センター編
	気粒子自選森慧作品集	1988		
	高橋節郎の素描	1982		
	S A M F R A N C I S	1987	彌生画廊	
	Monotype prints を中心にして	1990	"	
	小本章作品集	1991	美術出版社	小本章
	ミレー [名作100選]	"	日本テレビ放送網	飯田昌平編著
	LEIKO IKEMURA	1990	佐谷画廊	
	油絵の描き方	1981	主婦と生活社	上葛明広ほか著
	新・技法シリーズ 静物を描く	1967	美術出版社	堀内規次
	改訂増補 日本国画	1989	日貿出版社	依岡慶樹
	松本陽子の絵画	"	光琳社出版	尾野正晴
	小杉小二郎作品集	1988	東京セントラル絵画館	彩壺堂嘉門明子編
	No.6-No.10 倉島重友・野村義照・山本真也 1986-1991	1991	本庄俊男	彩鳳堂画廊編

	書名	刊行年	発行所	編著者名
絵画	Comparaisons 90 三栖右嗣作品選集 1945~1975	1990 1975		
彫刻	百翁平櫛田中作品集 瀬戸團治 水島弘一彫刻作品集 彫刻佐藤忠良 1949~1971 本郷新 川原竜三郎彫刻集 新谷秀雄自選彫刻作品集 1925~1978 サー・シェワルツ彫刻作品集 1933~1990 佐藤忠良作品集 箕口博作品集 MEDARDO ROSSO NORIO IDE 芥川永自撰集 創造の感動に生きる MOSTRADI HENRY MOORE 斎藤聖香遺作集 工藤建 1979~1990 鍛琅の六十年 YAMAGA HATSUE ARMAN 小金丸幾久 Stone works 1958~1978 SHIN NOMIZU ASPECTI DELLA SCULTURA CONTEMPORANEA 1900~1989	1971 1984 1979 1971 1975 1991 1978 1990 1973 1980 1988 1979 1989 1985 1990 1986 1990 1969 1989	田中館 瀬戸團治 素人社 現代彫刻センター 〃 STUDIO VERDE 愛宕山画廊 現代彫刻センター 箕口百合子 K E N T 造形社 芥川永 扶桑社 酣燈社 黒谷美術 市川鍛琅 山家直 ルーブル美術	田中館編 瀬戸正編 広岡三智子編 現代彫刻センター企画 本郷新 圓鍔勝三ほか著 新谷秀雄著 寺門文雄編 陰里鉄郎、リチスコ・マガニアート解説 飯野毅一編 四方功一編 LUCIANO CARAMEL 八鍬瑞子 鹿内信隆 斎藤聖香 山家初枝 ソフトコミュニケーションズ編 久野利博編
工芸	日本陶芸巨匠大観 乾 坤 山崎覚太郎作品集 古赤繪皿百選 前篇 古代外邦陶器圖譜 古今の名碗 続 訂正増補 日本陶磁史 陶器圖錄 古唐津 李朝白磁 鉅鹿出土陶 李朝鐵砂 瀬戸物と美濃瀬戸 鑑定備考 日本陶器全書(巻1~4) 支那陶磁全書( ) 陶磁鑑定 註釋青瓷説全 青磁に就ての考察 美術工藝大観(巻1~3) 雀山窯 古染付皿百選(前編) 陶話會宋瓷展觀圖譜 彩華(第壹~參期) 呉州赤繪大皿 Making pottery "HOW TO DO IT" SERIES 7	1974 1971 1932 1926 1971 1927 1933 1932 1933 1932 1917 1917 1942 1933 1929 1930 1932	陶業時報社 光琳社出版 山中商會 洪洋社 雄山閣出版 工政會出版部 井上吉次郎 大西林五郎編 糞心道人 洪洋社 田邊武夫 山中商會 大塚功藝社 彩華社事務所 工政會出版部 THE STUDIO PUBLICATIONS LONDON AND NEW YORK	

		書名	刊行年	発行所	編著者名
工芸	東洋陶磁集成(第四輯)	1931	東洋陶磁研究所	東洋陶磁研究所編	
	髪漆畫選集	1937	マリア画房	奥村霞城編	
	朝鮮古蹟圖譜八	1928	朝鮮總督府		
	"十五	1935	"		
	外邦古陶器集	1926	京都便利堂	田中傳三郎編	
	東洋陶磁集成		東欧陶磁研究所		
	日本馬具大鑑一古代上	1990	日本中央競馬会	日本馬具大鑑編集委員会編	
	"二古代下	1991	"	"	
	"三中世	1990	"	"	
	"四近世	1991	"	"	
	佐藤陽雲伝	"		佐藤錦一編	
	伊藤公象	1989	博進堂美術出版事業部	たにあらた解説伸デザイン編	
	国無形文化財流し込み象嵌鐵付け透鉄袋打	1990		村瀬洋司編	
	昭和の文化遺産7工芸II	1991	ぎょうせい	新集社編	
書	"8工芸III	"	"	"	
	竹の馨り	1963	新竹工芸工房	林尚月斎	
	宮田宏平金工	1991	日本放送出版協会	宮田宏平	
	現代ガラスの美藤田喬平と世界の15人	"	関彰商事	武田厚、原蒼愁編	
	廣津雲仙白妙	1972	書道新聞社	廣津雲仙著 大原晋士編	
	111人による現代の書十年の動き<1981~90>	1966	岡村多聞堂	鈴木翠軒	
	昭和書壇150選師系作品集	1991	書道ジャーナル研究所	小野寺啓治編	
	小暮青風書作集—芭蕉旅情—	1985	修美社	修美社編	
	書学大系第1帙	"	松声会	小暮青風	
	"第2帙	1986	同朋舎出版	梅原清山ほか	
版画	"第3帙	"	"	田中節山ほか	
	"第4帙	"	"	中野北溟ほか	
	"第5帙	1988	"	尾崎邑鵬ほか	
	研究篇全15冊	"	"	吉川蕉仙ほか	
		"	"	小野寺啓治	
写真・映像	畠地梅太郎全版画集			町田市立国際版画美術館編	
	池田満寿夫版画集	1967	美術出版社		
	宮脇愛子版画集 1975~1990	1990	サン・ギョーム	澤田陽子・宮脇愛子アトリエ編	
	THE PRINTS OF MARIAN KORN				
	深沢幸雄銅版画全作品集 1955~1980	1981	りゅう画廊出版部	川合昭三編	
デザイン	" II 1981~1991	1991	ギャラリーはさか出版部	保坂幹雄 深沢暁子編	
	世界寫眞帖	1911	ともゑ商會	田山宗堯	
	還暦記念寫眞帖		三一會	三一會編	
デザイン	鴻団東京工科大学建築系集	1990	日本電子工学院	新建築社編	
	八王子専門学校日本工学院集鏡	1991	山口保	山口保	
	柴田是真花の丸集成	1976	京都書院	福田徳樹	
デザイン	支那刺繡圖案	1924	三K會	島田貞彦編	
	五百選新作圖案集(第1~3輯)	1937	博美社	和田三造編	
	萬國圖案大辭典I~XX	1928~1930	民圖書書社	大隅為三編著	
	岡案	1954	同学社	武田信夫 小関利雄	
	天井繪軌範	1929	芸艸堂	西田嘉兵衛編	
	ornamental design		office du Livre		
	Best100 Japanese Posters, 1945~1989	1991	凸版印刷	ポスター100選定委員会	

	書名	刊行年	発行所	編著者名
一般・参考図書	伝承を考えるⅢ 千葉県議会史<第6巻>	1992 "	うらべ書房 千葉県議会	平野馨 千葉県議会史編さん委員会
	与謝野晶子歌碑めぐり	1991	二瓶社	堺市博物館編
	桑名藩史料集成 '91千葉市制施行70周年	1990 1991	桑名市教育委員会	桑名市教育委員会
	八千代市の歴史資料編 原始・古代・中世	"	八千代市	千葉市総務局市長公室広報課
	千葉県地名変遷総覧 創立百年	1970 1981	千葉県立中央図書館 千葉県立千葉高等学校創立 100周年記念事業期成会	八千代市史編さん委員会 千葉県立中央図書館 100周年記念誌編纂委員会編

## 分類別図書数

(平成4年3月31日現在)

分類	平成2年度まで	平成3年度	計
美術総記	1,162	63	1,225
絵画	988	100	1,088
彫刻	150	25	175
工芸	252	58	310
書	119	11	130
版画	92	8	100
デザイン	26	32	58
写真・映像	155	4	159
その他の	45	0	45
雑誌(合冊・復刻)	303	29	332
一般図書	315	8	323
合計	3,607	338	3,945

区分	平成2年度まで	平成3年度	計
購入図書	2,072	110	2,182
受贈図書	1,535	228	1,763
合計	3,607	338	3,945

(展覧会図録を除く)

## 刊行物一覧

名 称	規 格	頁 数	発 行 部 数
千葉県立美術館報 Vol.18 №.1～2	B 5	6	各2,000
平成2年度版 千葉県立美術館年報	B 5	60	1,000
常設収蔵作品展 目 錄	B 5	(1期)4 (2,3期)2 (特設コーナー) 2	(1,2期)各3,000 (3期) 5,500 (特設コーナー) 6,000
ポスター	A 2	1	1,000
特別展「英國水彩画展」 図 錄	26×21	112	1,000
ちらし	B 5	2	30,000
ポスター	B 2	1	1,000
車内吊ポスター	B 3	1	2,000
特別展「近代陶芸のモダニズム」 図 錄	28×21	112	1,000
ちらし	B 5	2	30,000
用語解説	B 5	2	8,000
出品作家略歴	B 5	2	8,000
ポスター	B 2	1	1,500
車内吊ポスター	B 3	1	2,000
企画展「安藤信哉展」 図 錄	B 5	30	300
ちらし	B 5	1	5,000
ポスター	A 2	1	1,000
企画展「第5回現代日本具象彫刻展」募集要項 図 錄	B 5 24×25	8 72	10,000 1,500
ちらし	B 5	2	10,000
公募用ポスター	B 2	1	5,000
展覧会ポスター	B 2	1	1,000
房総の美術史 №.91～102	B 5	4	各500
平成4年度事業案内	A 4 变形	3折	20,000
千葉県立美術館概要	A 5	8	3,000

## 調査研究員会議

学芸・普及の調査研究に関する協力を得ることを目的として、毎年10人以内の調査研究員を学識経験者の中から館長が委嘱。

本年度は、平成2年度に引き続き美術館の普及活動に関する研究に従事し、「学校教育と美術館普及活動」を研究テーマとして、3回の会議を実施した。(構成研究員数 小学校 教頭2教諭2 中学校 校長1教諭3 高校 元教諭2)

### ○第1回会議（6月26日）

- ・平成2年度研究経過確認。
- ・児童生徒向け広報資料作成の視点についての研究。

### ○第2回会議（8月20日）

- ・児童生徒向け広報資料作成手順、規格の研究。

### ○第3回会議（2月14日）

- ・研究員自作の広報資料にもとづく研究成果発表。

平成2年度以来、延べ5回の会議を重ね、研究員自作の広報資料案作成に至った。作成視点は、事業案内に準ずるもの、美術鑑賞の視点例、収蔵作品や作家の紹介など多岐にわたった。

## 活動協力

### 千葉県立美術館友の会

#### 1. 目的

"みる・かたる・つくる"という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。

#### 2. 組織

(1) 会員数 個人会員660人 賛助会員9人

(2) 役員 名誉会員6人 会長1人 副会長3人 監事3人 理事若干数

#### 3. 事業

(1) 友の会だより"しおさい"の発行、年4回。各1000部印刷し、会員に配布した。

(2) 第16回葉美会展の開催 会期／平成3年7月23日(火)～7月28日(日) 出品者30人 展示点数53点

(3) 秋の美術鑑賞の旅 美術品や文化財を訪ねながら、親睦も深めるために実施した。

①日 時 11月29日(金)

②行 先 茂原市(藻原寺、車偶庵、永吉眼科資料館)笠森寺観音堂

③参加者数 49人

(4) 館事業への協力

館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に參加した。

(5) その他

テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵の販売

#### 4. 平成3年度 友の会実技講座

講 座 名	期 日	日 数	受講者数	講 師
洋画入門講座(1)	6月6・7・8・13・14・15日 (木)(金)(土)(木)(金)(土)	6	39	根岸茂行
" (2)	7月2・3・4・5・6・7日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	〃	34	〃
" (3)	12月5・6・7・12・13・14日 (木)(金)(土)(木)(金)(土)	〃	31	天野三郎・関和彌
" (4)	2月12・13・14・15・19・20日 (水)(木)(金)(土)(水)(木)	〃	34	関和彌
デッサン入門講座(1)	8月6・7・8・9日 (火)(水)(木)(金)	4	26	戸田健夫
" (2)	2月25・26・27・28日 (火)(水)(木)(金)	〃	34	根岸茂行

## 博物館実習

関係各大学の依頼により学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受け入れた。

平成3年7月29日～8月3日

和洋女子大学1人、日本大学1人、金沢美術工芸大学1人、白梅学園短期大学1人、

跡見学園女子大学3人(計7人)

## その他の活動

### 新聞連載

平成3年6月22日～7月16日 千葉日報に特別展「英國水彩画展」開催に伴う原稿提供。12回連載。

8月3日～8月13日 千葉日報に企画展「安藤信哉展」開催に伴う原稿提供。5回連載。

8月3日～9月1日 朝日新聞に「コレクション20選 県立美術館」に伴う原稿提供。20回連載。

10月12日～11月3日 千葉日報に特別展「近代陶芸のモダニズム」開催に伴う原稿提供。10回連載。

## 資料貸出一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
岩崎巴人	風の中の釈迦	「近代の仏教絵画展」	3.4.13～5.12 長野県信濃美術館	長野県信濃美術館
鶴田吾郎	初転法輪			
石井林響	桃源	「大正の新しき波 日本画1910～20年代」展	3.4.13～5.5 徳島県立近代美術館 3.5.12～6.6 北海道立函館美術館	美術館連絡協議会
鶴田吾郎	富士山	「日本の名画－富士－」	3.4.14～5.6 河口湖町立河口湖美術館	河口湖町立河口湖美術館
小倉惣次郎	伊藤博文像	「日本近代彫刻の一世纪」	3.5.15～6.16 茨城県近代美術館	茨城県近代美術館
木村賢太郎	うごめくトルソーVI		3.6.22～7.21 徳島県立近代美術館	徳島県立近代美術館
宮田宏平	生命の透間風	「NHK工房探訪・つくる～美の匠～展」	3.6.18～6.23 東京・日本橋三越本店 3.7.11～7.16 新潟・新潟伊勢丹 3.8.22～8.27 大阪・阪神 3.8.29～9.3 熊本・岩田屋伊勢丹 3.9.11～9.16 福岡・岩田屋 3.10.9～10.14 仙台・ダックシティ丸光	N H K NHKプロモーション 日本放送出版協会
鶴田吾郎	蒙古の女	「昭和の絵画・第2部 －戦争と美術－」	3.8.15～9.16 宮城県美術館	宮城県美術館
“	手紙を書く兵士			
“	女子挺身隊 (バラシュート工場)			
藤田喬平	飾宮朱雀	「藤田喬平の世界」展	3.9.5～9.16 日本橋・高島屋	朝日新聞社
“	飾宮しだれ桜		3.9.19～9.24 大阪・高島屋 3.10.31～11.5 横浜・高島屋 3.11.7～11.12 京都・高島屋	
黒田重太郎	浴後	「20世紀・日本の絵画」	3.10.5～11.24 ふくやま美術館	ふくやま美術館
浅井忠	図案画稿「バラの花」	「日英美術交流展」	3.10.7～4.1.12 バービカン・アート・ギャラリー(ロンドン) 4.2.8～3.22 世田谷美術館	バービカン・アート・ギャラリー(ロンドン) 世田谷美術館
赤城泰舒	赤屋根の村	「明治期の水彩画－水絵の魅力」展	3.11.3～12.8 練馬区立美術館	練馬区立美術館
浅井忠	沢入駅			
石井柏亭	真間の入江(下図)			
ワーグマン	松島風景			
ミレー	垣根に沿って草を食む羊	「ミレー展」	3.11.24～12.8 山梨県立美術館	山梨県立美術館
大下藤次郎	青梅	「大下藤次郎展」	3.11.27～12.8 新宿・小田急グランド・ギャラリー	読売新聞社
“	久々子湖			
浅井忠	図案画稿(木かけの女)	「日本の眼と空間Ⅱ」展	4.1.2～1.27 セゾン美術館	セゾン美術館
“	図案画稿(戸棚図)			
“	図案画稿(女神図)			
“	図案画稿(魚の図)			
“	図案画稿(花瓶図)			
“	向付皿(5枚)			
“	花瓶			
“	茶托(8枚)			
和田英作	塚本靖肖像			
大森運夫	灯翳	「大森運夫展」	4.3.4～3.29 豊橋市美術博物館	豊橋市美術博物館
“	時空往還			

## 収 集 事 業

資料収集については、日本画13点、洋画14点、工芸19点、書1点、版画14点、研究資料14点を新たに収藏した。

その他、基金によりルノワールの洋画など22点を取得した。

## 収蔵資料

### 日本画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	石井林響	桃源	大正2	絹・屏風・着彩	168.0×369.0	購入
2	"	ねずみ	大正13	紙・着彩	24.5×33.3	寄附
3	山口豊専	千葉の男女	不詳	"	40.5×31.5	"
4	"	海蟹	"	"	"	"
5	"	山水図	"	"	"	"
6	"	山村祭	"	"	"	"
7	"	冽潤	昭和36	"	173.0×218.0	"
8	若木山	湧水	昭和37	"	218.0×173.0	"
9	"	潛	昭和39	"	173.0×218.0	"
10	"	山峡の春	昭和41	"	"	"
11	"	わだつみ	昭和42	"	"	"
12	"		昭和43	"	"	"
13	"			"	"	"

### 洋画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	安藤信哉	花束物	昭和45	キャンバス・油彩	116.0×116.0	寄附
2	"	静物	昭和52	紙・水彩	"	"
3	"	"	昭和55頃	紙・墨・着彩	90.0×90.0	"
4	石井柏亭	裏磐梯の秋	昭和27	紙・水彩	37.0×52.5	購入
5	伊牟田經正	悲劇	昭和52	キャンバス・油彩	106.5×132.0	"
6	大崎善生	溪流	昭和63	紙・水彩	87.7×128.5	寄附
7	"	初秋水郷	平成元	"	"	"
8	鹿子木孟郎	風景	不詳	キャンバス・油彩	60.6×45.5	購入
9	"	裸女と野花	"	"	45.5×52.9	"
10	鱸利彦	黄衣	"	"	89.5×71.5	保管換
11	椿貞雄	犬吠埼	昭和23	"	52.0×79.3	"
12	堀江正章	鶴岡常太郎像	不詳	紙・鉛筆	53.8×41.3	寄附
13	"	耕地整理図	明治34~35	キャンバス・油彩	89.5×149.8	保管換
14	真野紀太郎	バラ	昭和14~15	紙・水彩	28.5×38.5	購入

### 工芸

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	香取秀真	銅製おしどり型香炉	不詳	鋳金	3.8×7.5×5.0	購入
2	"	銅製猪型水滴	"	"	6.2×10.5×4.1	"
3	"	銅製茶托	"	"	各高1.3×径11.3	"
4	"	銅製魚文筆置	"	"	0.9×7.8×7.8	"
5	"	銅製蟹型筆置	"	"	1.0×5.6×4.3	"
6	津田永寿	雪の朝	平成元年	"	26.5×17.0×17.0	寄附
7	津田信夫	鳥	昭和4	"	21.0×40.0×31.5	購入
8	"	少師好生	昭和9	"	10.5×18.5×7.5	"
9	"	蛙	(一对)	"	4.6×7.5×8.0 4.0×10.0×9.0	"

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
10	津田信夫	灰嘶雷吼猿羊蛇彌勒菩薩	昭和9	金	6.5×17.0×16.5 44.0×49.5×17.5 21.5×28.5×11.0 7.8×6.0×6.5 4.8×9.6×4.3 5.7×10.5×6.5 36.5×18.0×18.0	購入
11	"		"	"		"
12	"	一聲	昭和10	"		"
13	"	猿	昭和12	"		"
14	"	羊	昭和13	"		"
15	"	蛇	"	"		"
16	"		昭和13~15	"		"
17	宮之原謙	鐵茶釉鱗文花瓶	昭和43頃	陶芸	高46.0×径21.2	"
18	"	香炉	不詳	"	高7.8×径9.6	寄附
19	山本正年	黎明	昭和28	"	50.0×35.0×25.0	"

## 書

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	宇津木雀聲	凝神著書	平成元	紙・墨	235.0×52.0	購入

## 版画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	遠藤健郎	市役所物語(22点1組)	平成3	紙・リトグラフ	46.0×35.0	購入
2	深沢幸雄	骨疾	B	紙・銅板	24.1×18.5	"
3	"	ひも	昭和31	"	36.6×24.2	"
4	"	ある個性	C	"	36.7×32.7	"
5	"	ダンテ神曲より ブルネット・ラティーニ	"	"	36.7×29.4	"
6	"	ダンテ神曲より チェルベロ	昭和32	"	36.7×36.3	"
7	"	舞踏	昭和33	"	48.0×24.9	"
8	"	墜ちてくる天使	"	"	36.5×30.0	"
9	"	繫縛	昭和34	"	36.6×36.6	"
10	"	未見の虚空より	"	"	36.5×30.1	"
11	"	昇華	昭和35	"	36.4×29.9	"
12	"	屈辱史	B	昭和36	58.0×36.5	"
13	"	残像	"	"	30.0×36.5	"
14	"	大虚	"	"	36.5×35.5	"

## 研究資料

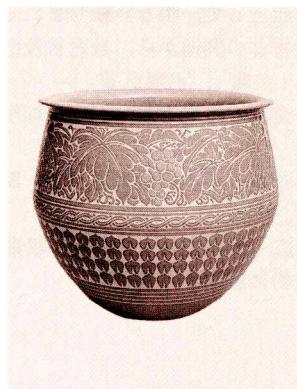
番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	石井林響	松龍文鉄金	昭和4	紙・着彩	21.0×18.0	寄附
2	香取秀真遺品	雲龍文鉄金	不詳	金	高16.1×径12.4	購入
3	"	銅製風炉	"	"	高21.8×径34.8	"
4	"	銅製筆洗	"	"	11.2×8.3×3.8	"
5	"	銅製錢型お守り	"	"	厚0.2×径3.2	"
6	"	是字瓦墨台	"	"	高1.1×径6.6	"
7	"	陶製朱肉入れ	"	"	4.0×8.5×9.5	"
8	"	硯	"	"	1.5×8.7×16.7	"
9	"	瓷硯	"	"	1.2×5.3×8.0	"
10	"	携帶用硯	"	"	1.3×6.3×8.3	"
11	"	須恵器高杯	"	"	高6.3×径8.0	"
12	"	銅製水差し	"	"	高6.2×径6.5	"
13	"	桐製手文庫	"	木	24.2×21.8×15.5	"
14	宮之原謙	壁面照明銀河	昭和6	陶芸		寄附

千葉県美術品等取得基金購入一覧

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	種別
1	デュプレ	森のはずれ	1860代	キャンバス・油彩	112.0×131.0	洋画
2	"	嵐の前	不詳	"	49.0×72.0	"
3	時田幸彦	舞妓図	昭和62	"	194.0×130.3	"
4	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860	"	93.0×132.0	"
5	ルノワール	少女像	1916~18	"	39.0×30.0	"
6	工藤健	愁いのマンドーラ	平成3	ブロンズ	140.0×106.0×90.0	彫刻
7	零駒無藏	集う人々の列に…	"	石	110.0×100.0×200.0	"
8	綿引道郎	詩人一生を見つめて	"	コールテン鋼	220.0×75.0×145.0	"
9	宮之原謙	釉嵌十字星結晶花挿	昭和7	陶芸	高38.0×口径18.3	工芸
10	"	天目釉草花文壺	不詳	"	高13.0×口径18.5	"
11	"	天目釉蓮蕾彫文壺	"	"	高26.0×口径31.0	"
12	"	盛上磁連星壺	"	"	高17.0×口径21.0	"
13	"	象嵌磁盛上花蝶鉢	"	"	高16.0×口径23.5	"
14	"	白磁四方百合象嵌大皿	昭和10	"	高5.9×径47.0	"
15	"	鉄釉牡丹唐草彫文壺	不詳	"	高27.0×口径33.0	"
16	"	牡丹文盛上水指	"	"	高15.0×口径16.5	"
17	"	盛上磁葡萄唐草壺	"	"	高28.0×口径30.0	"
18	"	白掛刻文茶碗	"	"	高7.0×口径13.5	"
19	"	"	"	"	高6.3×口径13.3	"
20	"	白釉茶碗	"	"	高8.3×口径11.5	"
21	"	窯変釉茶碗	"	"	高5.5×口径15.0	"
22	"	"	"	"	高6.0×口径12.5	"



津田信夫 雷吼一聲



宮之原謙「盛上磁葡萄唐草壺」



ルノワール「少女像」

収蔵資料数一覧

(平成4年3月31日現在)

区分	購入	寄附	保管換	合計
日本画	101	131	24	256
洋画	293	337	39	669
彫刻	75	24	10	109
工芸	97	44	9	150
書	26	50	14	90
版画	100	49	3	152
合計	692	635	99	1,426
研究資料	245	1,222	73	1,540

# 管 理 運 営

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、かつ動的な美の広場を目指して展示・普及活動を行っている。

協議会では、美術館の運営について協議した。

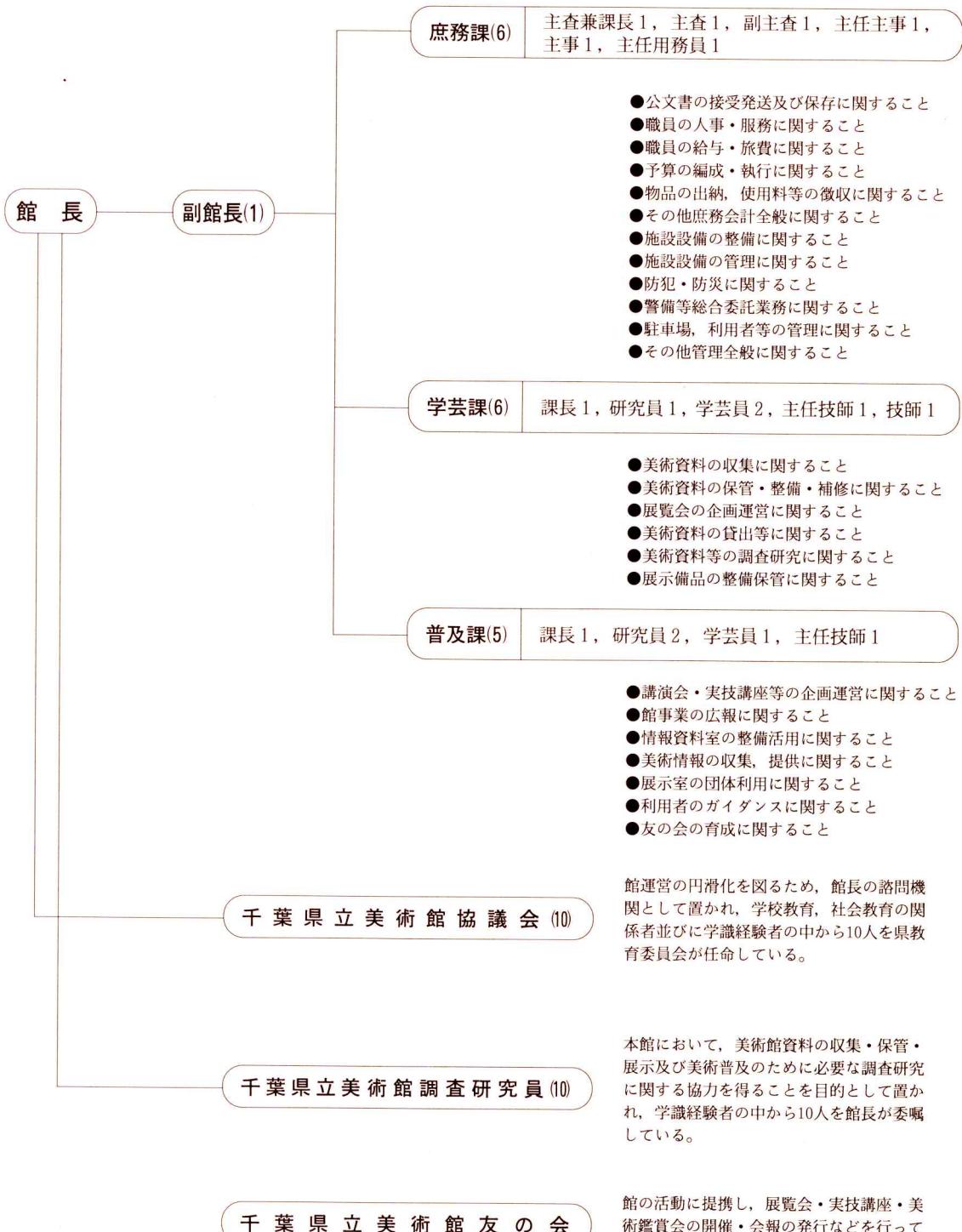
調査研究員会議では、美術館利用に伴う普及の方法について協議した。

## 運 営 方 針

- 県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある美術家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

# 機 構

組織及び事務分掌（4.3.31現在）



## 職 員

館 長	福 田 誠
副 館 長	小 池 賢 博
庶務課	
主 務 査 簿 長	高 浦 英 一
主 査	加 藤 貞 美 治
副 主 査	葛 生 久 雄
主任 主 事	渡 辺 和 子
主任 運 転 手	篠 原 恒 雄 (3. 8. 31転出)
主任 用 務 員	長 島 則 子

## 学芸課

学芸課 長	米 田 耕 司
学芸員	大 久 保 守 浩
研究員	田 坂 公 秀
学芸員	前 川 雅 成
主任技師	金 田 雅 中
技師	松 彰 久
普及課	
普及課 長	小 野 禮 子
研究員	木 鈴 喜 久 夫
"	神 尾 吉 夫
学芸員	藤 川 正 司
研究員	村 博 史 (3. 7. 31退職)
主任技師	相 川 順 子

## 千葉県立美術館協議会委員

氏 名	役 職	氏 名	役 職
須 藤 周 彦 (~3. 6. 30)	前千葉県教育研究会造形部会長	戸 田 穎 祐	東京大学東洋文化研究所教授
石 崎 朋 夫	千葉県経営者協会専務理事	富 山 秀 男	東京国立近代美術館次長
垣 畑 利 光	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長	長 谷 川 昂	千葉県美術会長
齋 藤 志 貴 雄	前千葉県立千葉東高等学校長	若 桑 みどり	千葉大学教養学部教授
佐 藤 信 夫 (3. 7. 1~)	千葉県教育研究会造形部会長	吉 田 稔	日本放送協会千葉放送局長
新 城 瑠 璃	ネスコ(株)取締役副社長 (千葉県立美術館友の会副会長)		

## 千葉県立美術館調査研究員

氏 名	役 職	氏 名	役 職
石 倉 総 子	千葉市こてはし台中学校教諭	高 木 正	大栄町立桜田小学校教頭
石 戸 久 嗣	千葉市立幕張本郷中学校教諭	根 岸 茂 行	(元) 県立船橋高等学校教諭
打 木 純 夫	千葉市立上の台小学校教頭	羽 生 智 樹	(元) 県立八千代高等学校教諭
大 須 賀 久 大	成田市立玉造中学校長	藤 江 雅 文	千葉市立作新小学校教諭
小 森 はるひ	千葉市立さつきが丘西小学校教諭	南 隆 一	横芝町立横芝中学校教諭

## 予算概要

(単位 : 千円)

事 業 名	予 算 額	事 業 概 要
運 営 費	展示事業費	44,745 特別展 2, 企画展 2, 常設収蔵作品展
	普及事業費	2,888 實技講座・講演会の実施等, 館報・年報・事業案内等の発行
	調査研究費	1,082 資料調査, 研究員会議等
	維持管理費	153,315 施設管理, 設備・機械保守委託, その他運営費
施 設 設 備 費	備品購入費	51,100 美術資料, 美術図書, 展示用備品, 視聴覚備品, 図書備品等
	委 託 費	4,300 作品修復, 備品修復
	工 事 費	6,800 展示室空調用ポンプ改修工事等
合 計		264,230

注)。職員の人事費は含まない。 別に資料購入のため基金20億円。

## 利用状況

### 入館者数一覧

種別 月	開館 日数	個　人			団　体						人数合計	備　考		
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生					
					人　数	團体数	人　数	團体数	人　数	團体数				
4	25	6,147	321	847	30	1	0	0	115	1	7,460			
5	27	12,352	514	1,859	284	9	33	1	270	3	15,312			
6	26	13,980	840	3,178	1,000	25	26	1	415	5	19,439			
7	26	12,308	815	2,547	531	15	74	3	23	1	16,298	特別展「英國水彩画展」		
8	27	11,870	911	3,157	111	3	0	0	0	0	16,049			
9	22	16,630	1,098	2,349	391	11	200	1	0	0	20,668			
10	23	11,585	328	5,033	632	18	22	1	339	4	17,939			
11	21	13,274	617	1,475	1,146	30	30	1	44	1	16,586			
12	21	13,080	443	8,308	169	6	0	0	331	9	22,331			
1	23	8,594	361	1,158	511	16	46	1	117	1	10,787			
2	25	11,043	815	2,887	311	12	106	2	49	2	15,211			
3	25	10,362	562	1,917	242	8	0	0	458	4	13,541			
計	291	141,225	7,625	34,715	5,358	154	537	11	2,161	31	191,621			

開館以来　総開館日数 5,041日　総入館者数 2,916,051人

### 地域別入館者数

種別 月	開館 日数	県　内			県　外			外　国	
		千	葉　市	そ　の　他	東　京　都	そ　の　他			
4	25		3,172		3,355		463	454	16
5	27		6,591		7,297		752	659	13
6	26		8,924		9,177		810	507	21
7	26		6,906		7,876		676	796	44
8	27		5,942		8,072		885	1,096	54
9	22		7,285		11,749		811	743	80
10	23		11,777		5,117		432	557	56
11	21		4,630		9,246		452	1,468	790
12	21		4,532		17,137		354	284	24
1	23		4,175		5,715		435	437	25
2	25		7,224		6,610		600	724	53
3	25		6,050		6,127		534	782	48
計	291		77,208		97,478		7,204	8,507	1,224

## 展示室利用団体

太字は県芸術祭関係

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 点 数
1	第28回全日本総合書道大展覧会	4. 9~4. 11	書	1,320
2	第15回鳳声会書作展	4. 16~4. 21	書	110
3	第61回郷陽会展	4. 16~4. 21	洋 画	146
4	第17回武藏野美大校友会千葉支部展	4. 23~4. 29	洋画・日本画・彫刻	70
5	第18回千葉新協展	4. 23~4. 29	洋 画	86
6	第11回千葉美術工芸展	4. 23~5. 6	工 芸	65
7	第17回歩会彫刻展	4. 23~5. 6	彫 刻	49
8	第22回表美展	5. 1~5. 6	表 装・額 装・屏 風	121
9	第9回日中友好書道展	5. 8~5. 12	書	6,306
10	第15回墨の県展	5. 14~5. 19	水墨画・日本画・洋画	381
11	第5回千葉水彩展	5. 21~5. 26	洋 画	73
12	第31回千葉市アマチュア美術展	5. 21~5. 26	絵画・書・写真・彫刻・工芸	700
13	第17回貌展	5. 28~6. 2	洋画・彫刻・工芸・写真	63
14	第36回二科展千葉支部展	5. 28~6. 2	洋 画	200
15	第38回千葉県書道協会展	6. 4~6. 9	書	447
16	第18回千虹会日本画展	6. 4~6. 16	日本 画	29
17	第13回新槐樹社千葉支部展	6. 11~6. 16	洋画・彫刻・工芸	53
18	第14回千葉一陽展	6. 11~6. 16	洋 画	148
19	千葉幼児美術展	6. 11~6. 16	絵 画	1,503
20	第16回関東全展	6. 18~6. 23	日本画・洋画	197
21	第6回日本画四季展	6. 18~6. 30	日本 画	63
22	第19回水彩連盟千葉支部展	6. 25~6. 30	洋 画	53

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 数
23	千 葉 二 紀 展	6. 25~6. 30	洋 画	90
24	第 5 回 ガラス絵コクリコ会展	6. 25~6. 30	ガ ラ ス 絵	85
25	第 35 回 千葉県小中学校書写展	7. 2~7. 7	書	1,300
26	明 日 を 拓 く 教 育 美 術 展	7. 2~7. 7	児 童 画	1,500
27	第 20 回 千葉市勤労者文化展	7. 2~7. 7	洋 画 · 書 · 写 真	88
28	第 14 回 精 銳 展	7. 2~7. 7	洋 画	50
29	第23回千葉市水墨画同好会連合会展	7. 9~7. 14	水 墨 画	462
30	第 11 回 ちば産経現代洋画展	7. 16~7. 21	洋 画	227
31	第 16 回 葉 美 会 展	7. 23~7. 28	日 本 画 · 洋 画	53
32	第 75 回 習 美 会 初 夏 大 作 展	7. 23~7. 28	日 本 画 · 洋 画	140
33	日本水彩画会第7回千葉県支部展	7. 23~7. 28	洋 画	58
34	第 25 回 漱 雲 会 全 国 書 道 展	7. 23~7. 28	書	717
35	第 8 回 千 葉 中 美 展	7. 30~8. 4	日 本 画 · 洋 画	45
36	日 本 水 墨 院 千 葉 展	7. 30~8. 4	水 墨 画	121
37	第 20 回 写 真 千 葉 県 展	7. 30~8. 11	写 真	297
38	第 5 回 白 亜 会 千 葉 支 部 展	8. 6~8. 11	洋 画	44
39	第 21 回 い て ふ 会 彫 刻 展	8. 6~8. 11	彫 刻	52
40	第 31 回 白 扇 書 道 会 展	8. 13~8. 18	書	9,200
41	第 19 回 千 葉 市 教 職 員 美 術 展	8. 20~8. 25	日本画 · 洋画 · 彫刻 · 工芸	146
42	第 12 回 龍 峠 書 道 会 千 葉 県 人 展	8. 20~8. 25	書	465
43	第11回日本春秋書院千葉県書道連盟展	8. 20~8. 25	書	120
44	第29回新世紀美術協会千葉支部展	8. 20~8. 25	日 本 画 · 洋 画	72
45	太 平 洋 美 術 会 千 葉 支 部 展	8. 27~9. 1	洋 画 · 工 芸	96

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 点
46	共 濟 文 化 展	8. 27~9. 1	洋 画 • 書 • 写 真	137
47	第 24 回 千 葉 県 高 校 合 同 写 真 展	8. 27~9. 1	写 真	403
48	第 14 回 千 葉 等 迦 展	9. 3~9. 8	洋 画	52
49	第 21 回 新 構 造 千 葉 支 部 展	9. 3~9. 8	洋 画 • 彫 刻 • 写 真	147
50	第 7 回 日 本 書 道 学 會 千 葉 県 連 展	9. 3~9. 8	書	329
51	第 43 回 千 葉 県 美 術 展 覧 会 (県 展)	9. 14~9. 29	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	2,822
52	第 34 回 千 葉 市 小 中 養 護 学 校 児 童 生 徒 作 品 総 合 展 覧 会	10. 5~10. 13	絵画・彫刻・工作・その他	4,852
53	第 41 回 千 葉 デ ザ イ ン 展	10. 15~10. 20	デ ザ イ ン	67
54	第 38 回 千 葉 県 勤 労 者 美 術 展	10. 15~10. 20	日本画・洋画・写真・書	224
55	第 14 回 千 葉 県 写 真 展	10. 15~10. 20	写 真	136
56	千 字 会 書 展	10. 22~10. 27	書	86
57	第 18 回 文 化 書 道 連 合 会 公 募 展	10. 22~10. 27	書	772
58	第 11 回 二 科 会 写 真 部 千 葉 支 部 展	10. 22~10. 27	写 真	105
59	フ ア ン シ ー 洋 画 展	10. 29~11. 4	洋 画	85
60	第 23 回 千 葉 現 展	10. 29~11. 4	洋 画 • 彫 刻	107
61	日 韓 中 書 芸 文 化 交 流 展	10. 29~11. 4	書	159
62	第 2 回 千 葉 県 教 育 芸 術 祭	11. 6~11. 10	日本画・洋画・工芸・書・その他	270
63	ダ ネ ラ 展	11. 6~11. 10	工 芸	42
64	第 6 回 国 民 文 化 祭 ちば '91 『美 術 展』	11. 16~11. 24	日本画・洋画・彫刻・デザイン・書・工芸・写真	2,471
65	千 葉 県 高 校 芸 術 祭 「美 術 ・ 工 芸 ・ 書 道 作 品 展 」	11. 28~12. 8	絵画・彫刻・デザイン・工芸・書・その他	2,376
66	第 36 回 こ ど も 県 展	12. 10~12. 23	絵 画	12,000
67	第 27 回 登 龍 社 ・ 宮 坂 会 書 作 展	1. 7~1. 12	書	435
68	第 19 回 富 士 百 景 写 真 展	1. 7~1. 12	写 真	98

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 数
69	シ ル バ 一 書 道 展	1. 7~1. 12	書	256
70	今 日 の 美 術 を 考 え る 会 展	1. 14~1. 19	立 体 ・ そ の 他	33
71	明 る い 社 会 づ く り ポ 斯 タ ー コン ク ル 展	1. 14~1. 19	ポ ス タ ー	1,200
72	第 19 回 千 葉 書 壇 秀 拔 ・ 新 進 展	1. 21~1. 26	書	550
73	第 25 回 千 葉 県 老 人 ク ラ ブ 作 品 展	1. 21~1. 26	絵 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸 ・ 書	304
74	千 葉 市 観 光 絵 画 と 写 真 コン ク ル 展	1. 28~1. 2	洋 画 ・ 写 真	199
75	第 17 回 子 ど も 造 形 展	1. 28~2. 2	洋 画 ・ 彫 刻 ・ デ ザ イ ン ・ 工 芸 ・ そ の 他	1,200
76	第 9 回 千 葉 県 医 師 会 美 術 展	1. 28~2. 2	洋 画 ・ 日 本 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸 ・ 書 ・ 写 真	99
77	第 34 回 千 葉 市 小 中 養 護 学 校 書 写 展	1. 28~2. 2	書	1,399
78	群 鷗 書 人 展	2. 4~2. 9	書	52
79	第 7 回 書 星 選 拔 展	2. 4~2. 9	書	267
80	第 44 回 千 葉 県 小 中 高 校 書 初 展	2. 4~2. 9	書	867
81	千 葉 大 学 教 育 学 部 美 術 科 卒 業 制 作 展	2. 11~2. 16	洋 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸 ・ 写 真 ・ そ の 他	65
82	第 26 回 千 葉 大 学 学 生 書 道 展	2. 11~2. 16	書	105
83	幕 张 北 高 校 書 道 卒 業 制 作 展	2. 11~2. 16	書	68
84	第 15 回 唱 和 会 書 展	2. 18~2. 23	書	120
85	第 17 回 千 葉 県 民 写 真 展	2. 18~2. 23	写 真	353
86	和 洋 女 子 大 学 書 道 展	2. 18~2. 23	書	60
87	第 3 回 日 本 童 語 の 書 展	2. 25~3. 1	書	2,962
88	第 21 回 千 葉 県 大 学 美 術 連 盟 展	2. 25~3. 1	日本 画 ・ 洋 画 ・ デ ザ イ ン ・ 工 芸	91
89	第 23 回 千 葉 市 民 美 術 展	3. 3~3. 15	日本 画 ・ 洋 画 ・ 彫 刻 ・ デ ザ イ ン ・ 工 芸 ・ 書 ・ 写 真	1,191
90	第 39 回 書 星 教 育 部 展	3. 17~3. 22	書	1,249

# 施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下媒塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

## 外壁の打込みタイルー先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炻器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通り、2,400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施行時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目指に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防げ満足する状態に仕上った。

## 屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

## 空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルター、の3種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はCAV（定風量型）+VAV（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常

に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

## 照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx(平均)以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50,000lx(薄暗)から5,000lx(曇天)の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン(これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なる透過率を有する布を使用した)にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル(透過率53.6%)と黒地のジョーゼット(透過率35%)の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

## <設計及び工事監理者>

大高建築設計事務所

## <施工者>

建築：㈱竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業(㈱)

衛生＝第一管工事(㈱)

電気＝関東電気工事(㈱)

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

＜都市計画地域指定＞

用途地域：準工業地域

＜規模・面積＞

敷地面積 33,057.87m<sup>2</sup>

建築面積 8,777.94m<sup>2</sup>

延床面積 10,663.57m<sup>2</sup>

展示棟 6,343.02m<sup>2</sup>

管理棟 2,818.89m<sup>2</sup>

県民アトリエ棟 1,501.66m<sup>2</sup>

駐車台数 97台

＜工期及び建設経費＞

(1) 第1期工事(展示棟) 5,194.59m<sup>2</sup>

(建築面積5,102.35m<sup>2</sup>)

○工期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本体工事 425,230千円

電気設備工事 79,663千円

空調設備工事 166,493千円

給排水衛生設備工事 28,995千円

外構工事 67,705千円

ガス工事 7,881千円

(2) 第2期工事(管理棟) 2,274.60m<sup>2</sup>

(建築面積1,089.50m<sup>2</sup>)

○工期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円

本体工事 307,500千円

電気設備工事 30,000千円

空調設備工事 79,000千円

給排水衛生設備工事 19,514千円

外構工事 17,786千円

(3) 第3期工事(県民アトリエ) 1,501.66m<sup>2</sup>

(建築面積1,449.34m<sup>2</sup>)

○工期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円

本体工事 265,300千円

電気設備工事 35,000千円

空調設備工事 56,200千円

給排水衛生設備工事 13,500千円

○工期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事 8,000千円

(4) 第4期工事(第8展示室1,148.43m<sup>2</sup>・

収蔵庫544.29m<sup>2</sup>) 1,692.72m<sup>2</sup>

(建築面積1,136.75m<sup>2</sup>)

○工期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747,500千円

本体工事 476,000千円

電気設備工事 81,000千円

空調設備工事 171,000千円

給排水衛生設備工事 19,500千円

総工事費 2,355.267千円

工期別面積一覧

(単位: m<sup>2</sup>)

区分	地階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	322.80	4,753.03	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	338.26	8,474.25	1,793.30	57.76	10,663.57

＜概要＞

建物

【階数】

地下1階、地上2階、塔屋1階建

【高さ】

基礎底: GL-5.00m

高さ: GL+15.20m

【構造】

主体構造: 鉄筋コンクリート造

屋根: 鉄骨造

主鋼材: SS41及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート(基礎・地中梁・1階

スラブ) Fc = 210kg/cm<sup>2</sup>

B種・軽量コンクリート(梁・スラブ用・地上部) Fc = 300kg/cm<sup>2</sup>

C種・軽量コンクリート(地上部躯体でAB以外の梁・壁など) Fc = 240kg/cm<sup>2</sup>

【外部仕上げ】

外壁: 灰器質タイル、一部コンクリート打放し

屋根: 勾配屋根=アスファルトルーフィンシート、天然スレート3枚葺

陸屋根=アスファルト防水、押えコンクリート、豆砂利打込み

開口部: オーダーメイド自然発色サッシュ、一部型鋼グラファイト処理サッシュ

【内部仕上げ】

展示室: 床=ビニールホモジニアスタイル

床=自然石(北木島御影)円盤擇および本磨(第7室)置敷きタイルカーペット(第8室)

壁=石綿珪酸カルシウム、板下地クロス張り、塗装仕上げ

壁=コンクリート碎り仕上げ(第7室)

天井=岩綿吸音板、塗装仕上げ

天井高=3,240～13,500mm

事務室: 床=ビニールホモジニアスタイル

壁=プラスチック塗装仕上げ

天井=岩綿吸音板塗装仕上げ

天井高=3,400mm

収蔵庫: 床=フローリングブロック

壁・天井=米杉(第1・2室)桐(第3・4室)

天井高=3,400mm

講堂:床=置敷カーペット

壁=マコレ練付け

天井=クロス張り

第1・第2アトリエ:

床=ビニールアスベストタイル

壁=コンクリート打塗装仕上げ

天井=軟質石綿板

研修室:床=ビニールアスベストタイル

壁=クロス張り

天井=岩綿吸音板

和室:床=玄晶石水磨き、タタミ、桧家甲板

壁=京じゅらく塗

天井=杉柾ベニヤ目透し、竿縁天井

## 設備

### 【電気設備】

受電方式:交流 3相3線式6,000V 50Hz

電話交換方式:64回線デジタル交換機方式

### 【空調設備】

展示棟=CAV(定風量型)+VAV(可変風量型)方式

管理棟=VAV方式

保管庫=露点再熱制御方式

県民アトリエ棟=各室ハンドリング方式

熱源:空気熱源スクリュー熱回収ヒートポンプ方式

### 【衛生設備】

給水:ポンプ圧送方式、引込み管径75mm

排水:汚水・雑排水合流方式系統(管径300),雨水系統(管径300)別、公設本管へ放流

### 【防災設備】

排煙方式:自然排煙、機械排煙(第1, 2, 7展示室)

消化方式:屋外・屋内消火栓、不燃性ガス消火設備  
(ハロゲン1301)

自家発電:ディーゼル機関直結交流発電機、定格出力  
100kVA

火災報知設備:P型1級自動火災報知設備

### 【その他の設備】

防犯設備:ITVカメラ設備、防犯警報装置

昇降機設備:荷物用エレベーター

規模:容量3,000kg、カゴ内法=3,000mm×3,000mm×  
3,000mm、速度30m/min

## 展示棟

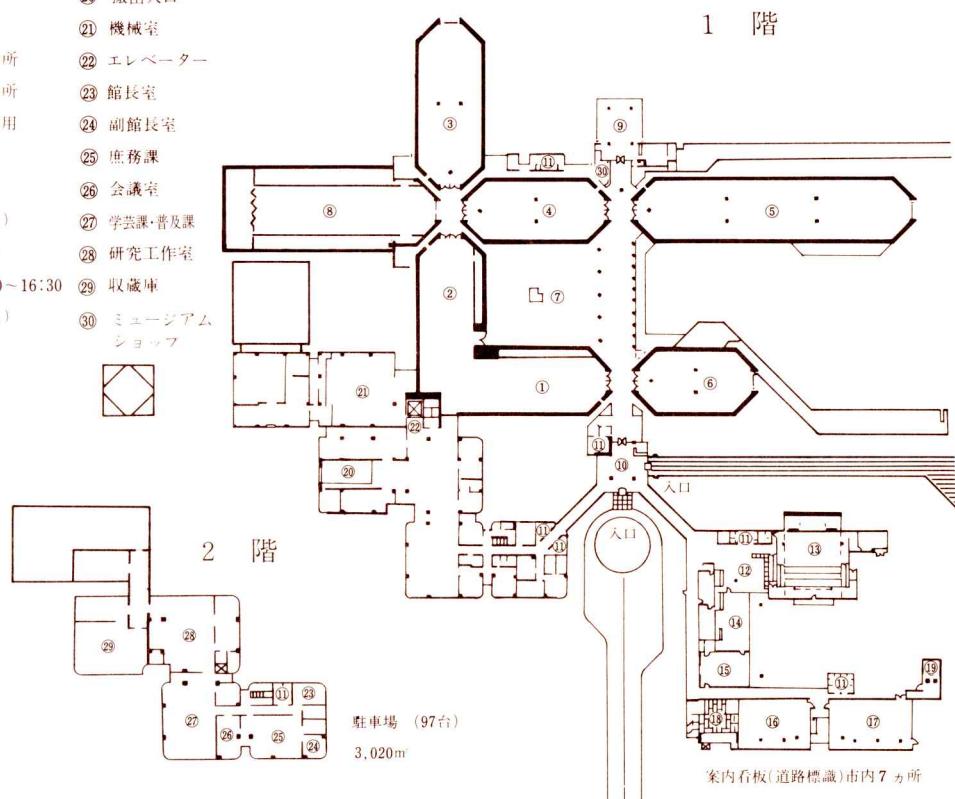
## 管理棟

玄関ホール	102.40m <sup>2</sup>	身障者用便所	7.92m <sup>2</sup>	(1階)		
クローケ	91.80m <sup>2</sup>	コントロール室	20.16m <sup>2</sup>	第2	会議室	22.62m <sup>2</sup>
倉庫A	2.70m <sup>2</sup>	フィルター室	28.92m <sup>2</sup>	更衣室		14.83m <sup>2</sup>
" B	"	工作室	31.00m <sup>2</sup>	医務室		21.18m <sup>2</sup>
第1展示室	437.76m <sup>2</sup>	発電機室	25.00m <sup>2</sup>	書庫		22.02m <sup>2</sup>
" 2	400.32m <sup>2</sup>	電気室	123.20m <sup>2</sup>	警備員室		43.59m <sup>2</sup>
" 3	469.08m <sup>2</sup>	ポンプ室	76.80m <sup>2</sup>	第1会議室		20.15m <sup>2</sup>
" 4	403.20m <sup>2</sup>	機械室	305.20m <sup>2</sup>	倉庫		7.19m <sup>2</sup>
" 5	824.19m <sup>2</sup>	機械室(新)	283.82m <sup>2</sup>	湯沸室		5.19m <sup>2</sup>
" 6	330.58m <sup>2</sup>	高架水槽室	11.46m <sup>2</sup>	便所		24.54m <sup>2</sup>
" 7	566.56m <sup>2</sup>	E.V機械室	27.28m <sup>2</sup>	宿直室		34.20m <sup>2</sup>
" 8	864.61m <sup>2</sup>	E.V廻り	54.56m <sup>2</sup>	物置		9.92m <sup>2</sup>
食堂堂	119.52m <sup>2</sup>	ダストスペース	35.68m <sup>2</sup>	用務員室		31.83m <sup>2</sup>
厨房房	36.00m <sup>2</sup>	廊下等	123.48m <sup>2</sup>	審査室・資料室		520.68m <sup>2</sup>
従業員控室	17.28m <sup>2</sup>			準備室・荷解室		
食堂ホール	49.20m <sup>2</sup>	合計① 6,343.02m <sup>2</sup>			消毒室	31.79m <sup>2</sup>
ミュージアムショップ	12.00m <sup>2</sup>				資料庫	124.25m <sup>2</sup>
ロビー	335.52m <sup>2</sup>				荷解梱包保管室	52.67m <sup>2</sup>
第1休憩室	23.04m <sup>2</sup>				荷扱人室	21.94m <sup>2</sup>
" 2	"				機械室	51.74m <sup>2</sup>
" 3	"				廊下等	123.52m <sup>2</sup>
便所A	30.24m <sup>2</sup>			小計		1,183.85m <sup>2</sup>
" B	23.76m <sup>2</sup>					

(2階)	便 所	21.50m <sup>2</sup>	ホ ー ル 側 便 所	29.97m <sup>2</sup>	
館 長 室	33.27m <sup>2</sup>	湯 沸 室 A	3.24m <sup>2</sup>	情 報 資 料 室	172.77m <sup>2</sup>
副 館 長 室	23.42m <sup>2</sup>	” B	6.87m <sup>2</sup>	情 報 資 料 室 倉 庫	4.70m <sup>2</sup>
第 1 応 接 室	14.67m <sup>2</sup>	廊 下 等	60.94m <sup>2</sup>	事 務 室	22.76m <sup>2</sup>
” 2 ”	14.55m <sup>2</sup>	ダクトスペースその他	3.56m <sup>2</sup>	研 修 室	74.70m <sup>2</sup>
庶 務 課 室	112.34m <sup>2</sup>	小 計	1,635.04m <sup>2</sup>	研 修 室 倉 庫	4.23m <sup>2</sup>
会 議 室	43.84m <sup>2</sup>	合 計 ②	2,818.89m <sup>2</sup>	第 1 ア ト リ エ	155.70m <sup>2</sup>
学芸課・普及課室	195.32m <sup>2</sup>	* 展 示 室 総 面 積	4,296.30m <sup>2</sup>	” 2 ”	184.31m <sup>2</sup>
学芸相談室	23.91m <sup>2</sup>	* 収 藏 庫 総 面 積	771.50m <sup>2</sup>	” 3 ”	95.47m <sup>2</sup>
研 究 工 作 室	216.49m <sup>2</sup>	ア ト リ エ 側 便 所		ア ト リ エ 側 便 所	20.77m <sup>2</sup>
写 真 ス タ ジ オ	54.30m <sup>2</sup>	荷 解 室		荷 解 室	25.65m <sup>2</sup>
器 材 室	6.74m <sup>2</sup>	県 民 ア ト リ エ		窯 場	27.17m <sup>2</sup>
暗 室	12.19m <sup>2</sup>	1 F 機 械 室	25.92m <sup>2</sup>	窯 場 倉 庫	6.66m <sup>2</sup>
第 1 収 藏 室	184.40m <sup>2</sup>	講 堂 倉 庫	8.64m <sup>2</sup>	ホ ー ル そ の 他	352.67m <sup>2</sup>
” 2 ”	42.81m <sup>2</sup>	講 堂	259.24m <sup>2</sup>	合 計 ③	1,501.66m <sup>2</sup>
” 3 ”	544.29m <sup>2</sup>	コ ン ト ロ ー ル 室	30.33m <sup>2</sup>	総 合 計	10,663.57m <sup>2</sup>
E . V 前 室	16.39m <sup>2</sup>			(①+②+③)	

## 内 容

- ①~⑧ 展示室
- ⑨ 食堂(44席)
- ⑩ 女闘ホール
- ⑪ トイレ  
男子用 6 カ所  
女子用 6 カ所  
身体障害者用  
2 カ所
- ⑫ ホール
- ⑬ 講堂(200人)
- ⑭ 情報資料室
- 火～金 12:30～16:30
- ⑮ 研修室(40人)
- ⑯~⑯ 実技室
- ⑯ 窯場
- ⑯ 搬出入口
- ⑯ 機械室
- ⑯ エレベーター
- ⑯ 館長室
- ⑯ 副館長室
- ⑯ 庶務課
- ⑯ 会議室
- ⑯ 学芸課・普及課
- ⑯ 研究工作室
- ⑯ 収蔵庫
- ⑯ ミュージアム  
ショップ



# 関係法令等

## 1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に当る法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に当る法律に規定する休日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することができる。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会を観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 でい酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。
- 三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食をすること。
- 四 その他、他の入館者の妨げになるような行為をすること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは

備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償せざることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

## 2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料および手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するものほか、この条例の定めるところによる。

(使用料等の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区分	単位	額
博物館	入館料	特展覧会	1人1回につき	510円以内

（以下省略）

## 3. 使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六（抜粋）

行事等	施設
県民の日（6月15日）。 65歳以上の者、身体障害者（介護者を含む。）又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

# 平成4年度主要事業

## 企画展

### 常設収蔵作品展

4月1日(木)～平成5年3月28日(日)

本館が収蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の中から、年間を3期にわけて各テーマ等に基づき展覧するほか、新たに収蔵された作品を紹介します。(準備等のため開催されない期間や、開催期間中の展示替があります。)

### 石井光楓展 房総の美術家シリーズ(22)

11月21日(土)～12月24日(木)

房総の美術家シリーズは、房総に生まれ、あるいは定住して、近代日本美術界において活躍し、美術振興のために貢献した美術家の再発見と顕彰をめざしています。

今年度は、夷隅郡大原町に生まれ、長くヨーロッパ留学を得た後、春陽会を舞台に活躍した洋画家の石井光楓(1892～1975)に焦点をあて、回顧します。

### 第3回浅井忠記念賞展

平成5年1月16日(土)～2月21日(日)

平成2年度第2回展に引き続き、千葉県ゆかりの近代洋画の先覚者浅井忠の業績を記念し、その顕彰と現代美術の振興に寄与するため、「リアリズムの追求」を主題として、平面作品を全国公募し、入賞・入選作品を展覧します。

### 第16回千葉県移動美術館

大原町文化センター

11月12日(木)～11月25日(水)

大栄町コミュニティプラザホール

11月28日(土)～12月10日(木)

優れた美術作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただくため、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野の館収蔵作品を中心に巡回展を開催します。

## 特別展

### アンリ・ルソーとナイーフ美術展

5月16日(土)～6月21日(日)

ナイーフ(素朴派)美術は、20世紀初頭にアンリ・ルソーが登場し、独創的なスタイルで素朴な心情を表現した作品が高い評価を得てから、近代美術における一領域として注目を浴びるようになりました。ナイーフ美術の画家たちは、ほとんど独学で、その作品は自己流の様式ですが、反面、伝統にとらわれない豊かな感受性と自由な発想による表現が新鮮な世界を生み出して、あたかも原始美術や民族美術に通じるような内容を漂わせています。

本展では、アンリ・ルソーをはじめ、ボーシャン、ポンボワなどのナイーフ美術の代表的な画家たちの作品を展覧し、その世界を探ります。

### 竹久夢二展

9月5日(土)～10月11日(日)

大正ロマンの寵児であり、憂いをたたえた「夢二式美人」で一世を風靡した竹久夢二(1884～1934)は、画家としてのみならず、出版美術、商業デザイン、詩文など幅広い分野で活躍しました。また、銚子での滞在をもとに作られた詩「宵待草」に代表されるように、千葉県にゆかりの深い作家でもあります。夢二の芸術は、愛と流浪の人生を映しだし、哀愁と詩的な余韻に満ちた叙情世界がうたいあげられています。近年、夢二への関心と芸術への評価が高まり、多角的な研究とともにその全体像が紹介されるにつれ、ますます多くの人々の心を魅了しています。

本展では、わが国有数の夢二コレクションである河村コレクションを公開し、夢二の足跡とその業績を再確認します。

講演会 特別展、企画展に関連し、年5回開催

### 実技講座

No.	講 座 名	開 設 日 時 (12:30~16:30)	日 数	定員	講 師
1	日本画講座	5月22日(金)、23日(土)、24日(日)、26日(火)、27日(水)、28日(木) 29日(金)、30日(土)、31日(日) 6月2日(火)、3日(水)、4日(木)	12(8)	20	齊藤 悅
2	洋画講座1 (油彩)	7月2日(木)、3日(金)、4日(土)、5日(日)、7日(火)、8日(水) 9日(木)、10日(金)、11日(土)、12日(日)	10(7)	30	松沢 茂雄
3	洋画講座2 (水彩)	7月23日(木)、24日(金)、25日(土)、30日(木)、31日(金) 8月1日(土)、6日(木)、7日(金)、8日(土)、9日(日)	10(7)	30	戸田 健夫
4	版画講座	6月11日(木)、12日(金)、13日(土)、14日(日)、17日(火)、18日(木) 19日(金)、20日(土)、21日(日)、23日(火)、24日(水)、25日(木)	12(7)	20	増田 陽一
5	彫刻講座 (木彫)	8月4日(火)、5日(水)、6日(木)、7日(金)、8日(土)、9日(日) 11日(火)、12日(水)、18日(火)、19日(水)、20日(木)、21日(金)	12(8)	15	渋谷 三朗
6	陶芸講座1	7月1日(木)、2日(水)、3日(金)、4日(土)、5日(日)、14日(火) 21日(火)、22日(水)、30日(木)	9(6)	30	横山光ノ介
7	陶芸講座2	9月1日(火)、2日(水)、3日(木)、4日(金)、5日(土)、15日(火) 24日(木)、25日(金)、30日(水)	9(6)	30	神谷 紀雄
8	金工講座	1月22日(金)、23日(土)、24日(日)、26日(火)、27日(水)、28日(木) 29日(金)、30日(土)、31日(日) 2月2日(火)、3日(水)、4日(木)	12(8)	15	小林 正利
9	書芸講座	12月3日(木)、4日(金)、5日(土)	3(3)	25	中村 象閣

( ) は講師の指導日数

### 平成4年度職員

館 長	福 田 誠	普及課	
副 館 長	小 池 賢 博	普 及 課 長	藤 川 正 司
庶務課		研 究 員	高 橋 正 夫
庶務課長	所 甚 一	主 任 技 師	金 田 雅 成
主 査	加 藤 貞 美 治	"	相 川 順 子
副 主 査	葛 生 久 雄	技 師	矢 野 綾 子
主 任 主 事	渡 辺 和 子		
主 事	安 西 寿 子		
主任用務員	長 島 則 子		
学芸課			
学芸課長	米 田 耕 司		
研 究 員	大 久 保 守		
"	前 川 公 秀		
"	津 田 昇		
技 師	中 松 れ い		
"	三 浦 拓 郎		

利用案内

開館時間 交通

開館時間 午前9時から午後4時30分まで

**休館日** •月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）

- ・年末年始（12月26日～1月4日）
- ・展示替え等のため、必要があるとき。

観覧料・無料(ただし、特別展は有料)

団体観覧

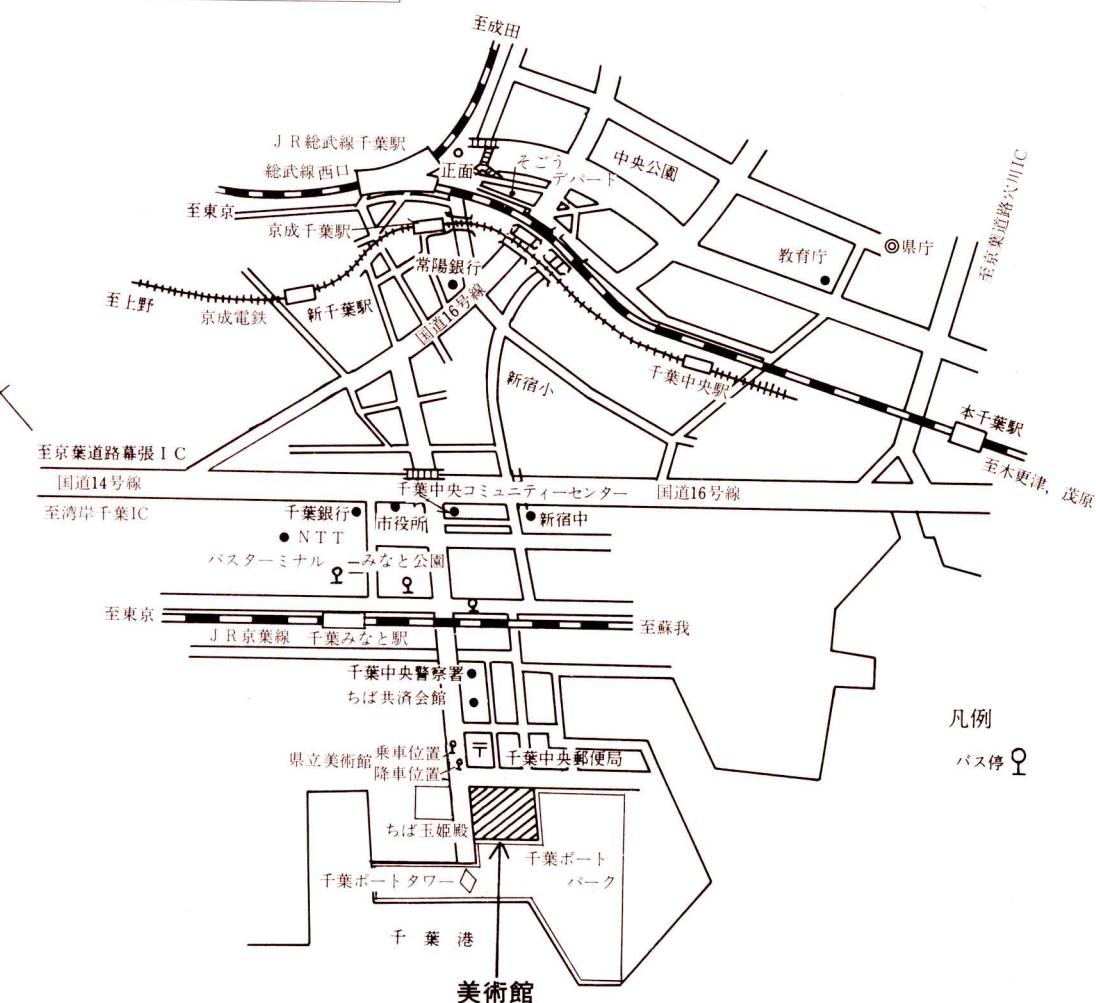
- ・団体で来館されるとき、あらかじめ御連絡いただければ館の概要や事業等のガイダンスをいたします。

★JR 総武線千葉駅下車

- 徒歩23分。
  - バス⑯番（千葉そごう前）のりばから  
「千葉ポートタワー」行にて15分、  
「県立美術館前」下車、徒歩1分。

★JR京葉線千葉みなと駅下車、徒歩8分。

## 案 内 図



---

千葉県立美術館年報（平成3年度）

発行 千葉県立美術館  
〒260 千葉市中央区中央港1-10-1  
TEL 043(242)8311  
印刷 株式会社 正文社

---

